

親潮

第 305 号
平成 27 年度 第 1 号

OYASHIO

北水同窓会誌

2015

305

No.1

ホームページをリニューアルしました

<http://hokusui.net>



New
北水同窓会
hokusui.net



特集

北水の今

未利用資源紅藻ガルスと その有効活用に向けて

- 幹事長ごあいさつ 水産学部・管理研究棟竣工式が開催 退職教員あいさつ
 第95回定期総会報告 追悼 クラス会報告 寄稿 ほか

今年度会費
納入の方に

北水同窓会限定

クリアファイルを
プレゼント!



会員名簿と
ともにお送り
します。

CONTENTS

幹事長ごあいさつ 3

特集 北水の今

未利用資源紅藻ダルスと
その有効活用に向けて

ダルスの形状、分布、生活史 4

水田 浩之(昭61ソ)

ダルスのタンパク質成分について 5

岸村 栄毅(昭60化)

ダルスの脂質成分について 6

細川 雅史(平2食)

ダルスの産業利用について 7

木下 康宣(平21応博)

北海道大学ホームカミングデー 2015
水産学部卒業生のつどいのご案内 9

水産学部・管理研究棟竣工式が開催 10

都木 靖彰(昭59ソ)

退職教員あいさつ 11

板橋 豊(昭50化) / 岸 道郎(特別会員) / 阿部 拓三(平11キ)

第95回定期総会報告 13

追悼 20

五嶋 聖治(特別会員) / 松原 久(昭58食) / 内藤 義和(昭44キ)

支部会・クラス会報告 23

今井 輝(昭32ソ) / 山口 伸治(昭49化) / 浜谷 一郎(昭51化) / 工藤 伸一(昭54キ)

寄稿 26

北水同窓会大阪府支部 藤井 英嘉(昭61キ)

学位取得者 28

卒業生の就職先 28

会員の異動 29

会員死亡通知 30

親潮投稿規定・編集後記 30

お知らせ

第96回(2016年)北水同窓会 定期総会 開催案内(予告)

来年の北水同窓会定期総会は、東京にて**5月27日(金)**に開催予定です。
18:00から定期総会、18:45から東京支部定期総会、19:00から懇親会
を予定しております。

詳細は追ってお知らせ致します。

問合せ先

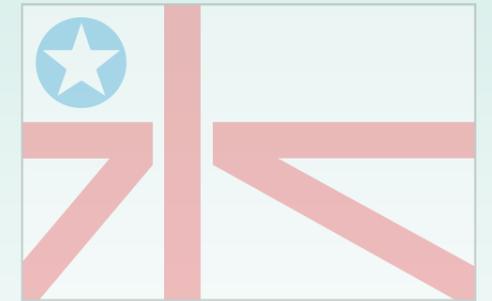
- (北水同窓会東京支部幹事長) 浜谷 一郎(昭51化) / 電話 080-6062-9386
- (北水同窓会東京支部幹事) 釜谷 明(平3食) / メール kamatani@yamasa.com
FAX ヤマサ醤油(株) 03-3661-8265



幹事長ごあいさつ

北水同窓会幹事長

荒井 克俊(昭51ソ)



齋藤誠一前幹事長の後を受け、平成27・28年度の幹事長に就任いたしました、昭和51年水産増殖学科卒業の荒井です。同窓会事業の継続・発展のために力を尽くす所存ですが、会員の皆様のご支援なくして、同窓会活動は成立しませんので、どうぞ暖かい声援をお願いいたします。

同窓諸兄におかれては、既にご承知のように、練習船おしよろ丸V世の就役、管理研究棟の改築落成、標本庫の新築着手など、水産学部(大学院水産科学院)の研究・教育環境は整備・充実されつつあり、次世代への飛躍が大きく期待されます。水産学部の発展をさらに支えるためには、同窓会の組織化と学部の諸活動への活発な支援が必要なことは論を俟ちません。しかし、残念なことに、その基盤となる同窓会財政は目下健全なものとはいえません。現在までに郵便振替、郵便局口座自動引き落としに加えて、コンビニエンスストアからの払込を可能とするなど会費納入方法の改善を鋭意図って参りましたが、会費納入率の向上にはつながっていない現状にあります。現在の納入率は二割未満です。この状況は、同窓会の経済的基盤の観点のみならず、会員間の負担の公平性の観点からも看過できません。会費滞納会員への会誌「親潮」の送付停止等の施策も含め、今後、早急に検討すべき課題と認識しており、近頃何らかの方針を打ち出したいと考えております。

財政健全化は、前幹事長から引き継ぐ重要課題ですが、その解決には組織ネットワークの強化も有効と考えます。各地域(支部)や各種イベント(学会、講演会、研修会など)と連携した同窓会活動が活性化すれば、それに参加する会員も増加し、ネットワーク強靱化のみならず、会費納入率の向上も期待できます。この様な観点から、会員の関心が高いイベントについては

会誌、ホームページなどを通じて、迅速な情報提供を行っていく所存です。最近では、おしよろ丸寄港・公開に合わせた歓迎イベントが実施され(本号26ページ参照)、来る9月26日にはホームカミングデーにおける講演会が札幌キャンパスで予定されています。さらに、SNS(Facebookなど)を利用した情報発信も行っており、最近では300人余りの方が閲覧(リーチ)しているとのこと(同窓会公式ホームページ<http://hokusui.net/>からもご覧になれます)。今年度は会員名簿発行年にあたっておりますので、会員名簿整備の過程における同窓との連絡を密にして、この発行事業を梃子として、さらにネットワークの深化・発展を進めたいと考えております。

ネットワークといえば、その国際化も重要な課題です。函館キャンパス、水産学部には毎年50名を超える留学生が在籍し、さらに大学院に進み修士、博士の学位を得て、帰国される方も多くおります。高橋是太郎幹事長在任の2012年には北水同窓会韓国支部が発足し、活動が始まりました。今後も状況が許せば、中国、タイなど同窓生の多い国に支部を創設することも可能と考えます。水産学部・大学院水産科学院(研究科)に学んだ留学生の皆さんとともに、国際的な枠組みの中で同窓会ネットワークの充実を図ることは、水産学部国際化のためにも重要です。この方向も是非進めていきたいと思っております。

同窓会活動は会員の協力なしには、一寸たりとも進みません。最後に、同窓生各位のご健勝とご発展をお祈りするとともに、母校水産学部を支え、発展させるための、北水同窓会へのご支援をお願いして、幹事長からのご挨拶とさせていただきます。存じます。

未利用資源紅藻ダルスとその有効活用に向けて

ダルスの形状、分布、生活史

水田 浩之(昭61ゾ)

一般的な海藻の体は、陸上の植物に比べ分化が進んでおらず、付着する機能に特化した付着器と栄養分やエネルギーを得るための葉状部と両者をつなぐ茎状部の3部分で構成されています。私達が目にするダルスは、赤色から紫褐色の体を持ち、小さな皿を伏せたような盤状の付着器で基質である岩やロープに体を固定します(図1)。付着器と葉状部の間は、5



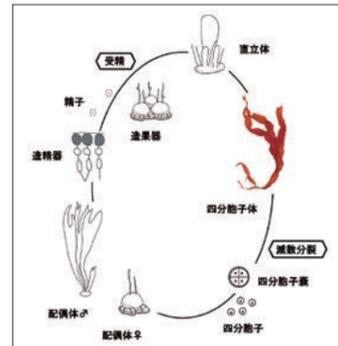
■図1. 2月函館近郊のコンブ養殖ロープ上に繁茂するダルス(水深1m)
写真:安井 肇(昭55ゾ)提供

mm未満の短い茎状部で繋がれ、茎状部の上部には厚さ0.3~0.5mmの扁平膜状の葉状部が形成されます。葉状部は又状あるいは掌状、フォーク状に伸長し、古い葉状部では縁辺から新しい葉が伸長したものや、葉状部の縁から小さな枝(副出枝)のあるものもあります。成長した葉状部は、およそ50cmの長さですが、1mを越えるまで成長できるといいます。多年生であり、毎年新しい成長を示しますが、最大でどこまで生きるか寿命は不明です。

本種は、紅藻綱ダルス目ダルス科ダルス属に属し、和名を「だるす」と称し、学名を *Palmaria palmata* (Linnaeus) Kuntze といいます。「人の掌」を意味するラテン語の "Palma" にちなんで名付けられました。海外では "Dulse" と通称される場合が多いが、アイルランドや英国では "Dillisk (ディリスク)" と呼ばれます。また、ノルウェーでは羊が干潮時に海辺でダルスを好んで食べることから、羊の食べ物という意で "sousoll (スーソール)" と呼ばれるなど地方によって様々な呼び名があります。ダルスは北大西洋および北太平洋の冷水種ですが、研究者によっては、太平洋の種と日本産の種と同一かどうかさらなる研究が必要とする意見もあります。北大西洋では北緯80度あたりに位置するスピッツベルゲン島とグリーンランドから北緯40度あたりのポルトガルやニュージャージーまで分布し、アイルランドやイギリス諸島における多くの岩

礁によくみられます。太平洋では、アラスカから北カリフォルニアの太平洋沿岸や東ロシアと千島列島、北海道、東北の沿岸域にかけて分布することが知られています。一般的に、ダルスは潮間帯下部やタイドプールで観察でき、最大20m水深まで生育します。また、ヨーロッパの海域に生息するダルスはコンブ属褐藻の一種 *Laminaria hyperborea* ラミナリア・ヒベルボレアや *Laminaria digitata* ラミナリア・ディギタータの茎状部によく付着する紅藻として観察できます。アイルランドでのダルスの生産量は多くても年間100トン(湿重量)程度ですが、需要の伸びに伴い、北アイルランド外洋での養殖プロジェクトが進行中です。また、フランスにおいてはタンクでの大量培養なども試験的に行われています。

多くの海藻の生活史は、一組の染色体をもつ有性の単相世代(配偶体)と受精によって二組の染色体を持つに至った無性の複相世代(胞子体)から成り、胞子体において染色体が半減する現象(減数分裂)によって生産された生殖細胞が再び配偶体になります。ダルスの生活史(図2)は、1980年にJ.P.van der MeerとE.R. Toddによって明らかにされました。水産資源の対象になるダルスは、葉状体の形態を示す四分胞子体(胞子体)と雄性配偶体です(図1、3)。これらの葉状体は、函館近郊で

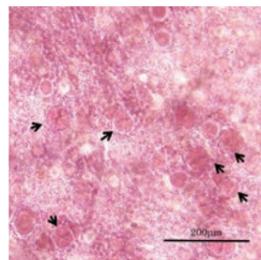


■図2. ダルスの生活史
図:安井 肇(昭55ゾ)提供

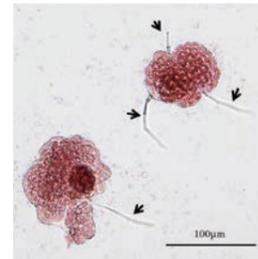


■図3. ダルス葉状体
写真:安井 肇(昭55ゾ)提供

は12月頃から潮間帯下部の岩石上に出現し、1~5月に繁茂します。多くの個体は6月になると消失します。四分胞子体が成熟すると皮層内に生殖器官である四分胞子嚢を形成し(図4)、その中で減数分裂を経て4個の胞子(四分胞子)が形成放出されます。放出された四分胞子は着生後ただちに分裂を開始し、1:1の割合で雌雄の基質を這うように成長



■図4. 四分胞子体中に形成された四分胞子嚢(矢印)



■図5. 雌性配偶体(匍匐盤状体)と受精毛(矢印)



■図6. 雄性配偶体(直立体)を形成した匍匐盤状体

する匍匐盤状体になります(図5、6)。雌の匍匐盤状体は、四分胞子体や雄性配偶体のように直立した葉状体とならず、直径が100~200μmの匍匐盤状体のままで、成熟すると盤状体の所々の細胞が受精毛を伸ばした造果器になります。一方、雄の匍匐盤状体からは直立体が形成され、巨視的な雄性配偶体になります。雄性配偶体は成熟すると体の表面に精子器がつけられ、不動の精子を形成し放出します。放出された精子は、受精毛に付着・融合し、精子核が受精毛を通して造果器に入ります。その後、核融合により受精が完了し、雌性配偶体上に多数の四分胞子体が形成されることになります。このようにしてダルスの生活史が一巡することになり、およそ半年間微視的な状態でじっと我慢し、直立体を形成するのに適した環境になると一気に葉状体に成長して私たちの目に触れることになります。

ダルスのタンパク質成分について

岸村 栄毅(昭60化)

■研究背景



北海道南部の南かやべ地区では、コンブの養殖ロープにダルスが自然に繁茂します。生産者からは、養殖コンブに太陽光が当たらずその成長の妨げになるとして、繁茂したダルスは厄介者扱いされています。しかしながら、最近の成分分析により、ダルスにタンパク質、食物繊維、カリウム、ビタミンB群などの栄養成分が豊富に含まれることも明らかになってきました。

このような背景を受け、私達は未利用資源であるダルスの有

効活用を目的として、ダルスに豊富に含まれる色素タンパク質の構造特性の解明と、それらが持つ健康機能性に関する研究を行っています。本稿では、現在までに得られた成果を簡単にご紹介します。

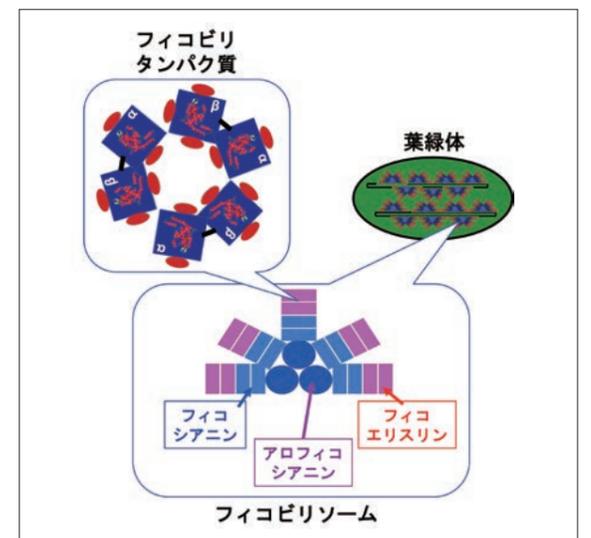
■ダルス由来フィコビリタンパク質の構造特性

乾燥したダルス試料に水を加えると赤色の成分が容易に抽出されてきます。その抽出液の色は、太陽光のもとでは鮮やかな赤色を示し、グリーンライトを当てると強い蛍光を発します。このような特性は、ダルス葉体中の主要なタンパク質である『フィコビリタンパク質』に由来します。紅藻類において、フィコビリタンパク質は、クロロフィルが吸収できない波長の光を効率よく吸収するという、光合成の補助色素としての働きを担っています。

一般に、紅藻類のフィコビリタンパク質は、主にα鎖とβ鎖という2種類のサブユニットから成り、それらが3個ずつドーナツように円形に組合わさった構造体を形成します。そして、このドーナツ状のものがさらに会合してフィコビリソームという巨大な集合体をつくります。フィコビリソームは、葉緑体のチラコイド膜の表面に沢山整列して存在します。紅藻類の主要なフィコビリタンパク質は、赤色のフィコエリスリン、青色のフィコシアニンおよび紫色のアロフィコシアニンです。それらの色調は、α鎖およびβ鎖のアポタンパク質に結合する色素の種類(フィコエリ



ナツ状のものがさらに会合してフィコビリソームという巨大な集合体をつくります。フィコビリソームは、葉緑体のチラコイド膜の表面に沢山整列して存在します。紅藻類の主要なフィコビリタンパク質は、赤色のフィコエリスリン、青色のフィコシアニンおよび紫色のアロフィコシアニンです。それらの色調は、α鎖およびβ鎖のアポタンパク質に結合する色素の種類(フィコエリ



スロピリン、フィコシアノピリン、フィコウロピリン)と数によって決まります。

ダルスから調製したタンパク質抽出液をスペクトル分析に供したところ、ダルス由来フィコビリタンパク質の主成分は赤色のフィコエリスリンで、次いでフィコシアニン、アロフィコシアニンの順であることが判明しました。そこで、ダルスのフィコエリスリンを精製して結晶を作製し、X線結晶構造解析によりその立体構造を決定しました。その結果、ダルス・フィコエリスリンは、他の紅藻類のものと同様の立体構造特性を有しておりました。また、ダルス由来フィコビリタンパク質の遺伝子構造を解明するため、フィコビリタンパク質の遺伝子がコードされる葉緑体DNAを次世代シーケンサで分析しました。その結果、3種フィコビリタンパク質(フィコエリスリン、フィコシアニン、アロフィコシアニン)の遺伝子構造と一次構造が明らかになりました。

■ダルス由来フィコビリタンパク質の健康機能性

1) 血糖値上昇抑制作用

近年、食生活や生活様式の変化に伴い、我が国の糖尿病患者数は年々増加する傾向にあります。そこで、ダルスから調製したタンパク質(ダルス・タンパク質)の血糖値上昇抑制作用について動物試験により検討しました。その結果、ダルス・タンパク質は糖負荷後の血糖値の上昇を有意に抑制しました。現在私達は、ダルス・タンパク質が小腸での糖の吸収を抑制するのではないかと推察しています。

2) アンジオテンシンI変換酵素(ACE)阻害作用

高血圧症を放置すると動脈硬化を引き起こし、心臓病や脳卒中などの様々な血管疾患の原因になることから、その治療および予防は重要な課題です。そこで、ダルス・タンパク質のACE阻害作用について検討しました。その結果、ダルス・タンパク質をプロテアーゼで加水分解したペプチド(ダルス・ペプチド)に強いACE阻害作用が認められました。次に、ダルス・ペプチドを分画して作用ペプチドのアミノ酸配列を決定しました。その結果、それら配列がダルス由来フィコエリスリンの一次構造中に多く認められました。これらのことから私達は、ダルスのACE阻害ペプチドの主たる由来タンパク質がフィコエリスリンであると考察しています。

3) 抗酸化作用

活性酸素による生体への酸化傷害が老化や種々の疾病の原因となることが明らかにされ、抗酸化物質を豊富に含む食品が注目されています。そこで、ラジカル消去活性を指標に、ダルス・タンパク質の抗酸化作用について検討しました。その結果、ダルス・タンパク質に抗酸化作用が認められました。一方、大腸菌で発現した、色素を持たないダルス・フィコエリスリンには抗酸化作用がほとんど検出されませんでした。このことから、ダルス・タンパク質の主要な抗酸化作用部位は、アポタンパク質部分ではなく色素部分であることが間接的に示唆されました。

ダルスの脂質成分について

細川 雅史(平2食)

■ダルスの脂肪酸組成

一般に海藻の主成分は糖質であり、脂質含量が低いことは広く知られています。紅藻であるダルスについても同様で、筆者らの分析結果では乾燥重量あたり3%前後でした。また、主要な脂質クラスもモノガラクトシルジアシルグリセロールなどのグリセロ糖脂質であり、紅藻に限らずコンブなどの褐藻やアオサなどの緑藻とも大きな違いは見られません。

一方、脂質に結合している脂肪酸の組成は、紅藻、褐藻、緑藻間で大きく異なっており、特にダルスでは特徴的な組成になっています。函館沿岸で採取したマコンブとダルスの脂肪酸組成を比較してみると、n-3系の高不飽和脂肪酸であるEPA(20:5、エイコサペンタエン酸)がダルスでは50%以上と非常に高く、n-6系脂肪酸のアラキドン酸(20:4)は3.5%と低い結果が得られました。また、n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸の比率(n-3/n-6 ratio)については、マコンブの15倍以上もの高い値を示し、特徴的な脂肪酸組成であることがうかがえます(表1)。

■表1. ダルスとマコンブの脂肪酸組成

脂肪酸 (wt%)	ダルス	マコンブ
14:0	6.9	9.6
16:0	16.5	13.9
18:0	0.5	1.7
18:1n-9	4.0	24.5
18:2n-6	0.4	8.3
18:3n-6	0.4	1.8
18:3n-3	0.4	2.5
18:4n-3	1.1	5.9
20:4n-6	3.5	10.1
20:5n-3 (EPA)	53.4	6.8
Total n-3	54.9	15.2
n-3/n-6 ratio	12.8	0.8

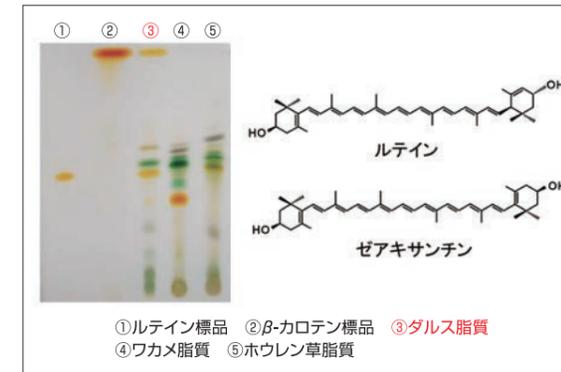
更に、脂質クラスごとに詳細に脂肪酸組成を分析したところ、最も主要なモノガラクトシルジアシルグリセロールでは、EPA含有率が70%以上にも達し、極めて高含有率であることが確認されました。このようにEPAを高い割合で含む海藻は、紅藻の中でもスサビノリを含めいくつかのものに限定されており、ダルス脂質成分の特徴といえます。

EPAは、血中脂質の低下作用をはじめ優れた健康機能が知られており、高純度に精製したエチルエステル体は医薬品として利用されています。脂質含量が少ないことから、ダルスに含まれるEPAを抽出、精製して利用することは効率的ではありませんが、海藻の付加価値的な栄養成分として興味深いと考えています。

■ダルスに含まれるカロテノイド

カロテノイドは光合成補助色素として、集光機能に加え、過

剰な光を熱として散逸する働きをもった脂質成分です。陸上植物はもとより、紅藻や褐藻、緑藻間では、それらに含まれるカロテノイドの種類が大きく異なっています。



■図1. ダルスに含まれるカロテノイドのTLC分析

図1に示すように、褐藻のワカメではフコキサンチンが主要なカロテノイドであるのに対し、紅藻のダルスではβ-カロテンに加え、ルテイン/ゼアキサンチン(シリカゲルTLCでは同じ位置に展開され区別できません)が高い割合で含まれています。一方、ホウレン草では、明瞭ではありませんがβ-カロテン、ルテイン/ゼアキサンチンに加え、ピオラキサンチン、ネオキサンチンなど複数のカロテノイドが含まれており、緑藻も類似の組成で、紅藻とは異なります。

このように、ダルスに高い割合で含まれるルテイン/ゼアキサンチンは、近年世界的に問題となっている高齢者での加齢黄斑変性症に対して予防効果を発揮することが報告されています。ダルスを直接摂取することによる予防効果については、その含量や吸収性を含めて詳細に検討する必要がありますが、興味深い脂質成分といえます。

ダルスには、前項で紹介されているように機能性をもった糖質やタンパク質成分が含まれています。そのような含量の多い有用成分の利用が可能になれば、抽出した粉末には脂質成分が濃縮されて残存することになり、新たな利用法につながるかもしれません。ダルス脂質成分については、その機能性や利用法を含めた研究展開が期待されます。

ダルスの産業利用について

木下 康宣(平21応博)

コンブは、我が国で古くより利用されてきた、日本人が誇るべき食材の一つです。その国内生産は現在、8~9割が北海道で行われていますが、この内、約3割は北海道大学大学院水産科学研究院が位置する函館地区で生産されています。ここでは、主にマコンブを対象とした安定的な養殖生産が精力的に行われていることが大きな特徴の一つです。

この地域で最も生産量が多いのは、南かやべ地区ですが、このコンブ養殖施設にはダルスと呼ばれる海藻が自然に繁茂することが知られています。しかしながら、我が国ではこれまでのところ、収穫対象とされておらず産業利用の例も開かれません。

ダルスは我が国で、北海道を中心に本州北部以北で自生しているとされ、一部の地域では「あかはだ」と称して食経験があることが知られています。その資源量は、南かやべ地域だけで年間約1,000~2,000tと推計されており、利用技術の開発が強く望まれると共に、新たな産業種としての活用が期待されています。そこで今、函館地域では、この未利用海藻の利用に関する様々な研究が進められています。

■日本人の経験を活かした新しい利用法の検討

ダルスは、ノリと同じ紅藻に分類される寒海性の海藻の一種で、収穫直後は紅紫色を呈しています。その食品としての利用は、先進地であるアイルランドやカナダを見ると、概ね生か乾燥品に限られます。このためか、学術的な研究も、ほぼ大部分が原藻を対象とした栄養学的な知見か、乾燥特性に係るものに限定されているようです。一方で、我が国には、世界的にも稀と言える海藻のボイル塩蔵技術があり、優れた知見と多くの経験を有しています。そこで、私達は新たな用途開発の方向性として、日本人ならではの新しい視点で素材特性や利用適性を探る試みを進めました。

上述の通り、ダルスは生だと紅紫色を呈していますが、ボイルによってどのような色合いが発現するのか知られていません。そこで、初めに、ダルスを沸騰海水中でボイル加熱した際の色調変化を観察しました。そうしたところ、ダルスは原藻が呈している紅紫色から緑色へと変化することが分かりました。しかしながら、ワカメやコンブといった海藻やニラやネギなどの野菜のように、私達が良く利用する食材にも緑色を持ったものは数多く存在しています。そこで、ダルスにしかない特徴を得べく、更に検討を進めました。その結果、ボイル加熱によって緑色化させたダルスの色調は、熱に強い特徴があることが分かりました。

ここでは、一部の結果のみを示しますが、市販されているコンブやワカメのボイル塩蔵品を95℃の人工海水中で4時間ボイルを続けると、灰褐色化が進み色調が劣化してしまっていますが、同様の実験をボイル塩蔵したダルスで行うと、4時間のボイル

を続けると、灰褐色化が進み色調が劣化してしまいますが、同様の実験をボイル塩蔵したダルスで行うと、4時間のボイル後でも綺麗な緑色が保持されていることが確認されました。次に、この緑色がどこまで熱に強いのかを知るために、レトルト加熱を施した際の色調を観察しました。ここでは結果を示しませんが、95℃の人工海水でボイルすることにより一旦緑色化させたダルスと20倍量の同溶液とともに包装資材へ充填し、120℃で10分間のレトルト加熱処理を施したところ、加熱後も著しい緑色の低下が認められないことが確認されました。こうした結果から、ダルスが持つ緑色は、レトルト加熱を行っても十分保持できるほど、加熱耐性に優れることが明らかになりました。



■ボイル前後の色調変化 ■4時間ボイルした時の色調変化

■産業利用に向けて

これまでの取り組みにより、ダルスには他の食材ではなかなか見られない特徴があることが明らかになりました。しかし、その食味や食感が広く消費者に受け入れられるものでなければ、食品としての利用は難しいのが現実です。そこで、2014年2月に函館市南かやべ地区で収穫されたダルスボイル塩蔵加工して試験販売し、一般消費者の方からのコメントを集めました。その結果、ノリのような香味を持ち、他の海藻では見られないシャキシャキとした食感があり、とても美味しいとの評価が得られました。こうした声は、ダルスの産業利用を加速させる上で、意義深いものと考えています。



■試験販売している南かやべ漁組・直販加工センターと販売風景

また、近年は、消費者の簡便志向の高まりを受けて、レトルトパウチ食品やチルド食品の売り上げが堅調な伸びを示していると言われていてます。

レトルト加熱は、水分が多い食品でも常温で長期の保管流通を可能にする優れた殺菌技術ですが、これにより製造されるレトルトパウチ食品では食品衛生上、「中心温度120℃、4分相当以上」という過酷な加熱処理を行うことが義務付けられています。また、惣菜類によくみられるチルド食品も、多くは包装後に100℃以下で数分～数十分の二次殺菌を行うことで、一定の保存性を確保していると聞きます。こうした製品では何れも、一定の加熱処理が施されるため、鮮やかな色合いを維持するのが難しいとされています。特に、レトルトパウチ食品で緑色を残すことは永遠の課題とされていると言われていてます。

今回の結果から、ボイルなどの加熱処理によって緑色化したダルスの色調(緑色)は、レトルト加熱に対しても十分に耐えられることが確認されました。このことから、ダルスは、色調に着目した付加価値の高い商品作りを求める食品業界に新たなビジネスチャンスをもたらす素材として、とても興味深いものだと考えています。今後、関連業界の方々の示唆もいただきながら、産業利用に向けた有意義な用途開発を進めたいと思っています。

■将来に向けて

ダルスは、海外の一部の国で古くより利用されてきた海藻ですが、我が国ではコンブ生産の陰に隠れて目が向けられてこなかった資源の一つと言えます。いやむしろ、貴重なコンブ生産の邪魔をする厄介者と捉えられてきた側面の方が強いかもしれません。こうした資源に新たな価値を見出す試みは、今後の我が国水産業の発展に資する大きな社会的意義を有していると考えます。

私達の取り組みの目標は、これまで利用されてこなかった海藻に付加価値を付与し、新たな地域資源として活用していくことにあります。現在の日本で、ワカメやコンブを知らない人はいないでしょう。一方で、今はダルスを知っている人がほとんどいないのが現状です。将来、ダルスと聞けば「あの海藻ね!」というくらい認知が拡がり、食品素材としての確たる地位を得ることができれば、その後は50年、100年と続く利用の文化が生まれ、我が国の大きな財産になるものと考えています。こうした将来の実現に向けて、北海道大学大学院水産科学研究所の諸先生から得られる栄養成分や健康機能に係る知見も活用させていただきながら、また、様々な分野でご活躍されている北水同窓会の皆様のご支援もいただきながら活動を進めていきたいと考えています。



水産学部卒業生のつどい

講演会 鯨類が目指す二つの道

～付録：混迷化する国際捕鯨情勢～

講師

加藤 秀弘 (東京海洋大学教授)

日時：平成27年9月26日(土)
14:00～15:30

場所：百年記念会館 大会議室



参加申込不要

profile

プロフィール



東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 教授。鯨類学研究室担当。
1952年生まれ。1975年北海道大学水産学部水産増殖学科卒業後、同大学院水産学研究科、旧(財)鯨類研究所、水産庁遠洋水産研究所鯨類生態研究室室長等を経て、2005年8月より現職。海洋環境学部門海洋生物学講座鯨類学研究室担当。シロナガスクジラ等大型鯨類の資源生態を専門とし、とくに環境変動に伴う鯨類の生活史変動と個体群調節機能の解明に取り組んできた。クロミンククジラの個体群動態研究で1999年度科学技術庁長官賞受賞。水産学博士。IWC科学委員会委員および同委員会政府派遣首席科学者、IUCN鯨類専門グループ委員、PICES海鳥海獣諮問委員会議長など歴任。主な著書に『ニタリクジラの自然誌』(第11回高知出版学術賞受賞)、『マッコウクジラの自然誌』、『鯨類資源の研究と管理』、『鯨類資源の持続的利用は可能か』、『鯨類海産哺乳類学』など。尚、SF小説『鯨の王』では主人公鯨類学者のモデルとなった。

講演会終了後、同窓生との懇談会(30分程度)を開催する予定です。

《学生諸君は、貴重な話が聞ける機会です。積極的にご参加ください。》



水産学部・管理研究棟竣工式が開催

都木 靖彰(昭59ゾ)



安井研究院長の挨拶



三上副学長の挨拶



2015年7月3日(金)午後2時から、全面改築された水産学部の管理研究棟の竣工式が正面玄関前で執り行われました。

安井 肇(昭55ゾ) 研究院長からは、懸案であった築40年以上経過し老朽化した管理研究棟の改築に携わった関係各位への感謝の言葉が述べられ、新しい建物の配色の由来や水産学部における管理研究棟の変遷についての話がありました。

続いて、三上 隆北海道大学理事・副学長からお祝いの言葉が述べられ、教員居室と研究室が一体化した新しい環境下で、さらなる水産学部の教育・研究の発展に期待するとの言葉をいただきました。また本建物は地域の災害時にも対応できるように設計が工夫されていることについても説明がありました。

最後に三上副学長、佐々木 力施設部長、安井研究院長、木村暢夫(昭55ギ) 副研究院長によるテープカッ

トが行われました。

なお、改築後の管理研究棟については、次号の親潮特集記事で詳しく紹介する予定となっております。



三上副学長、佐々木施設部長、安井研究院長、木村副研究院長によるテープカット

退職教員あいさつ

退職にあたって

板橋 豊(昭50化)

一昨年の3月に定年を迎えましたが、引き続き特任教授として教育・研究に携わり、本年3月末日をもって退職しました。限られた紙面ですが、過去を振り返って、皆様に一言御礼を申し上げたいと思います。



中学校の修学旅行で北海道を初めて訪れ、地平線が見える広大さに圧倒されたのが北大に魅かれた理由でした。水産類に入学し、水産化学科卒業後は就職を希望しましたが、今で言う「就活」に失敗して大学院に進学したことがその後の私を決めたように思います。修士課程修了後は「Dr. になって飢え死にした人はいない(はず)」と腹をくくって博士課程に進学し、実験に明け暮れたことを懐かしく思い出します。博士課程終了後1年ちょっとして運良く出身講座(魚油化学講座)の助手に採用されました。その後、数回海外に滞在して専門の研究を行う機会はありませんでしたが、退職までのほとんどを水産学部で過ごしました。これから研究者を志す皆さんには考えられないかもしれませんが、学生時代を含めると北大での生活は44年に及びました。

教育、研究、管理運営が大学教員の仕事ですが、振り返ってみると、いずれにも、悔いではありませんが、学生のために、学部のために、自分自身のために(あるいは世のために)もっとできたはずだと思いがちです。一方で、事務職員の方々と協力しながら築いていった就職支援システムは学生には好評で嬉しいことでした。その責任者をしばらく務めましたが、苦勞して内定を得た学生達のたくさんの笑顔に接したことは教員冥利に尽きるものでした。研究生生活は誰でも苦勞の連続だと思いますが、私にとって最も大きな喜びは、院生や助手だった若い時に、実験に没頭して背筋がぞくぞくと震えるような感動を何度か味わえたことでした。退職直前まで好きなガスクロや液クロを動かしていましたが、それは若い頃

を想いながらの至福の時間だったと思います。

水産学部で長い期間大過なく過ごすことができたのは「運がよかった」に他なりません。どんな職場でもそうだと思いますが、世の中自分の代わりは他にもたくさんいる(多分)ということです。そう思えば、今ある自分はラッキーだと思えて多少の困難には耐えられるでしょうし、日々どうあるべきかと反省もし努力もすることでしょう。私も区切り区切りのときにはそう思って過ごすようにしました。若い方々には現状に心乱されることなく好きなことにじっくり取り組んで欲しいと願っています。

最近、大学も教員も、したがってその指導を受ける学生たちも、細かいことを気にするようになったと感じています。私が憧れて入学した北大の大きさが函館キャンパスで少し戻ってくればよいと思っています。北大は総合大学でありながら、水産学部だけが函館にある状況は、学生にとっては理想の姿ではありません。難しい問題ですが、教育と研究の両面で札幌との交流が一層強化されて、札幌から函館への人の流れが活発になることを期待しています。

終わりになりましたが、長い間仕事の場を与えてくれた水産学部とその間ご指導・ご支援いただいた教職員の皆様、北水同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。皆様のご健勝と水産学部の一層の発展を願っています。

退職のご挨拶

岸 道郎(特別会員)

私は、北海道大学水産学部出身ではないので、ここに寄稿させていただく資格はないのでは?と思っておりましたが、教員は「特別会員」ということですので、謝辞を兼ねまして、書かせていただくことにいたしました。北大出身でも函館出身でもない、と



退職教員あいさつ

ということで、正直、ちょっとだけ居心地が悪い場面もありましたが、研究と教育ということでは、充実した17年半を送らせていただきました。特に、生態系モデルを作って水産海洋学の研究をする立場では、何か分からないことがあったら、10秒歩けば専門家がいらっしゃるわけで、この上もなく好都合で仕合わせでありました。お陰様で、2007年にはその年の環境分野で引用回数がベスト3になる論文も書くことができ、一生の思い出です。皆様、ありがとうございました。

さて、私が函館に単身赴任して来るときは、次女は小学校に入る直前の9月でした。それ以前から共働きで、子供達は保育園、学童保育、という生活でした。保育園も学童保育も周囲は同じような環境の子供達ばかりでしたから、子供達もそれが当然と受け入れてくれていて、全うに育ちました。それは、悪妻と娘達のお蔭です。家族に改めてお礼を言いたいです。我が家は、よその家と違って、お互い不干渉、のようなどころがあります。東大の助手時代、上司の家に遊びに行ったときに息子さんが「うちのとうちゃん、東大の助教授なんだよ」って自慢していましたし、最近、姪の同級生が「うちのお父さんアタマがよくって大学教授なんだよ」って言われたそうです。で、我が家は…といいますが、長女が「お父さん大学教授なの？」ってボソッと言ったのが大学受験のときでした。次女はパイロット目指して就活中ですが、「航空気象」の国家試験のときに、エルニーニョについて聞いてきたので、いろいろ説明したら「お父さん何でそんなに詳しいの？」って言いました。悪妻は私の仕事の内容には一切無関心だったような…。

今後は、自宅のある東京で、趣味の「クラシック音楽鑑賞」「サーフィン」「貯めたマイルを使った外国旅行」「北海道に来る口実のスキー」を中心に、昔の教え子が「海洋学科長」をしているバングラデシュのダッカ大学にボランティアで海洋学の授業をしに年に2〜3回行きたいと思っています。

北大水産学部を退職するにあたって

阿部 拓三 (平11ギ)

本年3月末日をもちまして北大水産学部を退職しました。おしよ丸三等航海士として着任したのは2009年の春です。その夏に開催されたおしよ丸就航100周年記念式典では数多くの同窓生と関係者の方々が参加され、水産学部と練習船の歴史と絆の深さ、そして応援して下さる方々の尽きることのないエネルギーの大きさに感動を覚えました。その後、おしよ丸IV世の最終航海とV世の建造・竣工に関わらせて頂いたことも私にとっては大きな財産です。

おしよ丸およびお丸での実習や調査・研究に関わる中で、練習船の運航が教員や事務などの大学関係者のみならず同窓の皆様など実に多くの方々に支えられてきたことを強く実感しました。そして国内外での各寄港地では同窓の皆様はその地域ならではの温かい歓迎をして頂きました。心よりお礼申し上げます。

また、一年のほぼ半分は洋上のフィールドという生活の中で、数多くの貴重な経験もさせて頂きました。外洋域でマンボウの大群に出会い、乗組員や乗船研究員、学生とともに、マンボウの体表についた無数の寄生虫をついばむアホドリ類の証拠をおさえたこと、洋上でイカが空を飛ぶ一連の行動を記録し形にできたことは、海洋生態学を志す者として大きな喜びです。

春からは、2011年3月11日の大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町にて、私のかつての職場であるネイチャーセンターの復活に関わる業務に役場職員(復興庁からの派遣)として従事しています。未だに先の見えない状況が続く現場ではありますが、最前線にある最先端の課題にしっかりと向き合い、北大のフロンティアスピリッツに恥じぬよう、地元東北の復興に尽力したいと思っております。

最後に、北水同窓生の皆様のご健勝と水産学部・水産科学研究所の発展を願って退職の挨拶とさせていただきます。これまで本当に有難うございました。そしてこれからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



北水同窓会総会の報告

- 開催日時：平成27年5月23日
- 会場：札幌サンプラザ 4階 金枝の間

平成27年度北水同窓会札幌支部総会及び平成26年度第95回北水同窓会定期総会は、平成27年5月23日16時から北海道札幌市北区の札幌サンプラザで行われました。定期総会の札幌での開催は、実に6年ぶりとなります。

始めに、平成27年度北水同窓会札幌支部総会が開催され、平成26年度事業報告、役員改選などの議案を幡宮輝雄(昭57ギ)札幌支部幹事長が説明し満場一致で承認、終了しました。

続いて、第95回北水同窓会定期総会が北水同窓会齊藤誠一(昭50ギ)幹事長の開会の辞により始まりました。

横山清(昭35エ)会長、函館からお越しいただいた安井肇(昭55ゾ)名誉会長から挨拶をいただき、議長には藤島浩晃(昭52ギ)さんが選出され議事に入りました。

齊藤幹事長ほか各幹事により平成26年事業経過報告など3つの議案が説明され、議案は全て承認、荒井克俊(昭51ゾ)新幹事長の閉会の辞により定期総会は無事に終了しました。

引き続き行われた懇親会は、北海道放送アナウンサー、佐藤彩(平19資)さんの司会により華やかな雰囲気で行われました。

まず、桜井泰憲(昭48ゾ)代表理事から挨拶をいただき、長沼昭夫(昭47ギ)札幌支部長の乾杯により開

宴し、地元の札幌はもちろん、北は旭川、南は大阪から184名の同窓生が参加し旧交を温めました。

今回、初めての試みとして、北大フロンティア基金への募金を行い、たくさん同窓生から寄附が寄せられました。寄せられた募金は水産学部現役学生への支援として6月に基金事務局に納めました。

また、札幌支部恒例となっている福引きや北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」などが演奏され、和やかな雰囲気では進み、出席された方々のうち一番の先輩の堀内一成(昭28セ)さん、遠く大阪から来られた大村泰治(昭51食)さん、政界でご活躍されている横山信一(昭58ギ)議員からのスピーチや次回定期総会開催地の東京支部、浜谷一郎(昭51化)幹事長からの挨拶をいただき、引き続き、あちこちで様々な話題を大いに語り合い、大いに楽しんで盛り上がりしました。

楽しいひとときはあっという間に過ぎ、恒例の寮歌斉唱は、北寮寮道遥歌は吉田弘(昭31ゾ)さん、水産放浪歌は藤原智史(平16シ)さん、都ぞ弥生は松尾直人(昭52ギ)さんの前口上により全員で行い、最後に、坂口大晃(平25海資)さん、齊藤重久里(平25資化)さん、佐々木良輔(平26資化)さんの若手3名による万歳三唱によりお開きとなりました。

定期総会の開催にあたり、福引き景品の提供や協賛広告に協力いただいた同窓の皆様、総会の準備、運営に協力いただいた札幌支部役員、北海道庁職員の皆様に感謝いたします。

札幌支部長 長沼昭夫(昭47ギ)



横山会長の挨拶



安井名誉会長の挨拶



桜井代表理事の挨拶



長沼札幌支部長 乾杯の挨拶



北大交響楽団の演奏



次回開催地東京支部の皆様



寮歌斉唱



若手による万歳三唱

第95回 北水同窓会定期総会報告

式次第

定期総会

司会 佐藤 彩(平19資)

- 開会の辞...本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)
●同窓会長挨拶...横山 清(昭35エ)
●名誉会長挨拶...安井 肇(昭55ゾ)
●議長選出...本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)
●議長登壇挨拶...藤島浩晃(昭52ギ)
議案第1号 平成26年度事業経過報告および会計決算報告...本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)他
議案第2号 平成26年度事業計画および予算案...本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)他
その他
●閉会の辞...本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)

懇親会

司会 佐藤 彩(平19資)

- 懇親会開会の挨拶...桜井泰憲(昭48ゾ)
●歓迎の挨拶と乾杯...長沼昭夫(昭47ギ)
●会食
●北大交響楽団弦楽四重奏
●出席者代表スピーチ
●次期開催地(東京)代表挨拶
●察歌斉唱
①「逍遙歌」 ②「水産放浪歌」 ③「都ぞ弥生」
●万歳三唱

出席者

〈全国各支部会員〉

湯佐 利夫 (昭23教セ) 札幌
伊藤 裕三 (昭28セ) 札幌
堀内 一成 (昭28セ) 札幌
白野 仁 (昭28ゾ) 札幌
山下 正徳 (昭28ゾ) 札幌
吉田 弘 (昭31ゾ) 札幌
島中 貞夫 (昭32ギ) 札幌
工藤 糾夫 (昭32セ) 札幌
今井 輝 (昭32ゾ) 札幌
泉 敏博 (昭33ギ) 札幌
佐野 康一 (昭33エ) 札幌
佐藤 京介 (昭33セ) 札幌
竹長 公彦 (昭34エ) 富山
窪田 稔 (昭34セ) 小樽
坂元 輝行 (昭35セ) 札幌
栗津健太郎 (昭35ゾ) 札幌
横山 久子 (昭35ゾ) 札幌
小田 章博 (昭36ゾ) 札幌
高山 裕斌 (昭36ゾ) 小樽
田畑 善行 (昭37ギ) 札幌
澤井 佳保 (昭37エ) 札幌
川向 国正 (昭37セ) 札幌
阿部 晃治 (昭37ゾ) 札幌
三本菅善昭 (昭38ゾ) 札幌
塩田 健二 (昭38ゾ) 札幌
丸 邦義 (昭38ゾ) 札幌
稲本 恒彦 (昭39ゾ) 札幌
熊木 匡典 (昭39ゾ) 札幌

中津 俊行 (昭39ゾ) 札幌
中村 恵雄 (昭41セ) 札幌
横山 文男 (昭41セ) 札幌
布施 英憲 (昭41ゾ) 札幌
岸本 富男 (昭42ギ) 函館
高橋 国臣 (昭42ゾ) 旭川
谷口 和広 (昭42ゾ) 札幌
萬上聰一郎 (昭42ゾ) 千葉
眞田 篤弘 (昭43化) 札幌
山口 皓 (昭44エ) 愛知
高橋 英明 (昭44食) 札幌
坂下 功 (昭45ギ) 札幌
高丸 禮好 (昭45ゾ) 札幌
村井 茂 (昭45ゾ) 札幌
原 彰彦 (昭46ゾ) 函館
及川 利幸 (昭47ギ) 札幌
長沼 昭夫 (昭47ギ) 札幌
穂積 明 (昭47ギ) 釧路
目黒 敏美 (昭47ギ) 函館
柴坂 貞夫 (昭47化) 札幌
水戸 啓一 (昭47ゾ) 千葉
青木山哲郎 (昭48ゾ) 札幌
吉原美智世 (昭48ゾ) 札幌
菊地 幹雄 (昭49化) 札幌
高橋 広夫 (昭49ゾ) 札幌
武内 良雄 (昭49ゾ) 札幌
末岡 順 (昭51ギ) 札幌
菅原 謙二 (昭51ギ) 東京

浜島 清剛 (昭51ギ) 札幌
糸井 秀之 (昭51ギ) 室蘭
大村 泰治 (昭51食) 大阪
松本 邦彦 (昭51食) 札幌
水嶋 好清 (昭51食) 札幌
浜谷 一郎 (昭51化) 東京
石田 耕司 (昭51ゾ) 札幌
吉田 英雄 (昭51ゾ) 札幌
藤島 浩晃 (昭52ギ) 札幌
宮下 晃一 (昭52ギ) 札幌
柳川 延之 (昭52ギ) 札幌
宮西 勝広 (昭52食) 札幌
我妻 雅夫 (昭52ゾ) 函館
片岡 辰三 (昭52ゾ) 札幌
池田 修 (昭53ギ) 札幌
瀧野 高司 (昭53ギ) 札幌
大野 主康 (昭54ギ) 札幌
嶋川 範明 (昭54ギ) 札幌
神保 重孝 (昭54ギ) 愛知
三河 康則 (昭55ギ) 札幌
片岡 郁夫 (昭55化) 札幌
大西 信幸 (昭59ギ) 札幌
河北 康明 (昭56食) 札幌
野崎 雅敏 (昭56ゾ) 札幌
幡宮 輝雄 (昭57ギ) 札幌
本間 靖敏 (昭57ギ) 札幌
小川 智靖 (昭57ギ) 札幌
細海 伸仁 (昭57食) 札幌

石田 宗博 (昭57化) 札幌
津坂 透 (昭57化) 札幌
法邑 一人 (昭57ゾ) 東京
宮本 篤郎 (昭57ゾ) 札幌
横山 信一 (昭58ギ) 札幌
山崎 峰男 (昭58ゾ) 札幌
富田 一生 (昭59ギ) 札幌
中田 克哉 (昭59ギ) 札幌
加賀 均 (昭59ギ) 札幌
小笠原昇市 (昭59ゾ) 札幌
佐藤 之紀 (昭59ゾ) 網走
馬場いづみ (昭59) 札幌他校
山本 和人 (昭59ゾ) 札幌
小山内雄彦 (昭60ギ) 札幌
工藤 寛 (昭60食) 札幌
久保 貴裕 (昭60化) 札幌
佐藤 伸治 (昭60ゾ) 札幌
石川 信博 (昭61ギ) 札幌
小林 樹夫 (昭61食) 札幌
菊地 輝繁 (昭61ゾ) 札幌
山口 修司 (昭61ゾ) 札幌
松尾 直人 (昭62ギ) 札幌
矢本 諭 (昭62ギ) 札幌
高橋 広樹 (昭62ギ) 札幌
村岡 真奈 (昭62食) 札幌
坪 晃一郎 (昭62食) 札幌
佐藤 雅己 (昭62化) 札幌
原田さちこ (昭62化) 札幌
秋成 太一 (昭63ギ) 札幌
小林 賢次 (昭63ギ) 札幌
藤田 瑞代 (昭63食) 札幌
長沼 秀直 (昭63ゾ) 札幌
敦賀 一郎 (平元食) 札幌
酒井 昌昭 (平元化) 札幌
山口 知子 (平元ゾ) 札幌
板谷 良久 (平3ギ) 苫小牧
片山 晴康 (平3ギ) 札幌
川村 忠 (平3ギ) 札幌
田中誠一郎 (平3ギ) 札幌
釜谷 明 (平3食) 東京
北 悟司 (平3食) 札幌
佐藤 正人 (平3食) 札幌
澤田 和明 (平3食) 札幌
中島 一也 (平3食) 札幌
大石 岩樹 (平3化) 札幌
梅木 淑子 (平4ゾ) 札幌
佐々木 剛 (平4ゾ) 札幌
伊藤 智英 (平5ギ) 札幌
高橋 研司 (平5ギ) 札幌
近藤 将基 (平5ゾ) 札幌
斎藤 博紀 (平7ギ) 札幌
宮北 佳恵 (平7食) 札幌

前野 良史 (平7化) 札幌
佐々木徹也 (平8食) 札幌
坂田 一人 (平8ゾ) 札幌
菊池 格 (平9ギ) 札幌
谷口 博史 (平11海) 札幌
森 拓通 (平11海) 札幌
都 洋一 (平11シ) 札幌
佐藤 俊平 (平11生) 札幌
吉江 洋郎 (平11資) 札幌
多胡 勇 (平12シ) 札幌
村花 宏史 (平13シ) 神奈川
谷口 哲将 (平13生) 札幌
辻 宏幸 (平13生) 札幌
工藤 将洋 (平13資) 札幌
伊藤 慶子 (平14生) 札幌
岡林 直樹 (平14生) 札幌
甲斐 友規 (平14生) 札幌
鈴木 健一 (平14資) 札幌
若山 賢一 (平15シ) 札幌
大平 康晴 (平15生) 札幌
工藤 周子 (平15生) 札幌
堤 輔 (平15シ) 室蘭
藤原 智史 (平16シ) 札幌
坂本 和佳 (平17海) 札幌
佐藤 彩 (平19資) 札幌
野嶋美沙都 (平20シ) 札幌
伊藤 貴洋 (平20生) 札幌
全先 清博 (平20生) 札幌
鐵川 明子 (平21海) 札幌
熊谷 優子 (平21海) 札幌
渡部 千種 (平21海) 札幌
水田 紘子 (平21生) 札幌
中川 恵介 (平21資) 札幌
石垣 浩介 (平22資化) 札幌
浮穴 純貴 (平22資化) 札幌
石田 智啓 (平23増生) 札幌
佐藤 孝哉 (平23資化) 札幌
坂口 大晃 (平25海資) 札幌
斉藤亜久里 (平25資化食) 札幌
佐々木良輔 (平26資化) 札幌

〈本部〉

横山 清 (昭35エ) 会長
安井 肇 (昭55ゾ) 名誉会長
齊藤 誠一 (昭50ギ) 幹事長
桜井 泰憲 (昭48ゾ) 代表理事
荒井 克俊 (昭51ゾ) 学内理事
水田 浩之 (昭61ゾ) 庶務部
藤本 貴史 (平12生) 会計部
井上 晶 (平5化) 編集部

総会次第

1.開会の辞

幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)

2.議長選出

3.議案第1号

- 平成26年度事業経過報告および会計決算報告
(1)一般経過報告
幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)
(2)庶務部報告(資料1)
庶務部 水田 浩之(昭61ゾ)
(3)編集部報告(資料2)
編集部 井上 晶(平5化)
(4)組織部報告(資料3)
庶務部 水田 浩之(昭61ゾ)
(5)会計部報告(資料4)
会計部 藤本 貴史(平12生)
(6)会計監査報告
会計部 藤本 貴史(平12生)

4.議案第2号

- 平成27年度事業計画および予算案
(1)平成27年度役員改選案(資料5)
庶務部 水田 浩之(昭61ゾ)
(2)第96回(平成27年度)定期総会開催地(東京)について
幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)
(3)平成27年度予算案
1.会計部予算案(資料6)
会計部 藤本 貴史(平12生)
2.編集部予算案(資料7)
編集部 井上 晶(平5化)
3.組織部予算案(資料8)
庶務部 水田 浩之(昭61ゾ)

5.議案第3号

- 会則第4章第7条改正案(資料9)
庶務部 水田 浩之(昭61ゾ)

5.その他

6.閉会の辞

幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)

第95回 北水同窓会定期総会報告

■平成26年度 庶務部報告 (資料1)

1) 新入会員数

海洋生物科学科	49名
海洋資源科学科	42名
増殖生命科学科	52名
資源機能化学科	60名
大学院 (他大学、他学部出身者)	
修士	3名
博士	8名
合計	214名

2) 本年度物故者 (平成26年度親潮掲載分)

正・準会員	79名
名誉、特別会員	1名
合計	80名

3) 会員現在数 (3月10日現在)

正・準会員総数	14,945名
物故正・準会員数	3,110名
正・準会員現在数	11,835名
(内準会員数)	(17名)
特別会員数	68名
会員数合計	11,903名

4) 新入会員を含めた会員現在数 (3月10日現在)

合計	12,117名
----	---------

■平成26年度 編集部報告

(親潮発行) (資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	303号	平26年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	304号	平27年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計		64	17,000	2,000,000	
決算	303号	平26年9月25日	本誌 36頁 (内カラー7頁)	8,500	1,150,254	※1
	304号	平27年3月9日	本誌カラー 28頁 (内カラー9頁)	8,500	966,654	※1
	合計		64	17,000	2,116,908	

※1 印刷会社: (有)三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

■平成26年度 組織部報告

(名簿会計) (資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	699,081	699,081	未収3件計上 名簿積立金
	広告未取分	85,000	85,000	
	一般会計より繰入	1,200,000	1,200,000	
	受取利息		266	
合計	1,984,081	1,984,347		
支出	次年度繰越金	1,984,081	1,984,347	
	合計	1,984,081	1,984,347	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 1,984,347円)

■平成26年度 会計部報告 (資料4)

1) 平成26年度 一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	2,601,472	2,601,472	1,956名 予算1,800名
	会費	7,200,000	8,040,000	
	親潮広告料	180,000	180,000	
	雑収入	100,000	1,670,445	
合計	9,711,287	11,397,312		
支出	親潮印刷費	2,000,000	2,116,908	(資料2) 親潮発送費 2回分含む 札幌開催
	通信・運搬費	1,600,000	1,635,171	
	総会旅費	300,000	300,000	
	組織強化費	900,000	2,543,149	
	札幌ホームカミングデー経費	300,000	177,350	
	函館ホームカミングデー経費	0	0	
	備品費	0	0	
	消耗品費	250,000	130,167	
	会議費	30,000	22,000	
	振替手数料	160,000	162,250	
	事務嘱託費	2,250,000	2,246,710	
	備人	80,000	75,000	
	HP維持費	240,000	200,000	
	雑	20,000	15,235	
OA機器整備費	50,000	50,000		
名簿会計へ	1,200,000	1,200,000	積立 (資料3)	
予備費	701,472	0		
次年度繰越金		1,617,977		
合計	10,081,472	12,491,917		

収支差引額(平成27年度に繰越)1,617,977円
(繰越金の内訳: 銀行預金 1,480,432円、現金137,545円)

2) 平成26年度 OA機器整備費(積立) 決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	200,086	200,086	調整、ハードディスク購入
	一般会計より積立	50,000	50,000	
	受取利息		42	
合計	250,086	250,128		
支出	パソコン整備		31,233	調整、ハードディスク購入
	次年度繰越金	250,086	218,895	
合計	250,086	250,128		

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 218,895円)

3) 平成26年度 特別会計決算報告

	項目	予算額	決算額
収入	前年度繰越金	19,247,535	19,247,535
	ゆうちょ銀行利息		267
	定期預金(マリンバンク)利息		2,178
	合計	19,247,535	19,249,980
支出	次年度繰越金	19,247,535	19,249,980
	合計	19,247,535	19,249,980

○平成26年度 特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金1口	7,204,000	
ゆうちょ銀行預金	1,114,786	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	10,931,194	
合計	19,249,980	

■会計監査報告

北水同窓会の平成26年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記
1. 監査対象期間 自 平成26年3月16日 平成27年3月11日 監事 清水 晋 (印)
至 平成27年3月10日
2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。
以上 監事 増田 宣泰 (印)

■平成27年度 役員改選案 (資料5) [○は新任]

会長

横山 清 (昭35エ)

名誉会長

安井 肇 (ノ55ゾ)

副会長

鈴木 賢一 (ノ36セ)

吉野 生壮 (ノ37ゾ)

樋口 達夫 (ノ50食)

代表理事

桜井 泰憲 (ノ48ゾ)

学内理事

今野 久仁彦 (ノ49食)

齊藤 誠一 (ノ50ギ)

高橋 是太郎 (ノ50食)

門谷 茂 (ノ50化)

飯田 浩二 (ノ51ギ)

平石 智徳 (ノ51ギ)

荒井 克俊 (ノ51ゾ)

矢部 衛 (ノ51ゾ)

中谷 敏邦 (ノ52ギ)

梶原 善之 (ノ53ギ)

宮澤 晴彦 (ノ53ギ)

山下 成治 (ノ54ギ)

尾島 孝男 (ノ54化)

木村 暢夫 (ノ55ギ)

川合 祐史 (ノ55食)

足立 伸次 (ノ55ゾ)

山羽 悦郎 (ノ55ゾ)

工藤 勲 (ノ57化)

関 秀司 (ノ57化)

高木 省吾 (ノ58ギ)

都木 靖彰 (ノ59ゾ)

岸村 栄毅 (ノ60化)

向井 徹 (ノ61ギ)

亀井 佳彦 (ノ61ギ)

水田 浩之 (ノ61ゾ)

宗原 弘幸 (ノ61修ギ)

高津 哲也 (ノ63ギ)

安藤 靖浩 (ノ63化)

今村 央 (ノ63ゾ)

監事

○河原 武則 (ノ43エ)

清水 晋 (ノ53ギ)

学外理事

山内 彬一 (ノ26ギ)

中村 哲也 (ノ28セ)

寺地 潔 (ノ28ゾ)

大島 栄一 (ノ30エ)

富田 幸二 (ノ30セ)

服部 保次郎 (ノ31エ)

羽田野 六男 (ノ31セ)

箕田 嵩 (ノ31ゾ)

高野 和則 (ノ32ゾ)

高島 優 (ノ33エ)

山崎 文雄 (ノ33ゾ)

菊地 英樹 (ノ34エ)

米田 義昭 (ノ34セ)

梨本 勝昭 (ノ36ギ)

小祝 良介 (ノ36エ)

大割 了 (ノ37ギ)

繪面 良男 (ノ37セ)

河村 章人 (ノ37ゾ)

古井 恒弘 (ノ37ゾ)

麦谷 泰雄 (ノ37ゾ)

安間 元 (ノ38エ)

天下井 清 (ノ39エ)

菅野 泰次 (ノ39ゾ)

小越 征夫 (ノ40エ)

木村 昇 (ノ40セ)

猪上 徳雄 (ノ41セ)

上平 幸好 (ノ41ゾ)

岸本 富男 (ノ42ギ)

山本 勝太郎 (ノ42ギ)

池田 勉 (ノ43ゾ)

仲谷 一宏 (ノ43ゾ)

高橋 豊美 (ノ44エ)

工藤 昭彦 (ノ44ゾ)

志賀 直信 (ノ44ゾ)

山内 皓平 (ノ44ゾ)

伊藤 悦郎 (ノ45ギ)

三浦 汀介 (ノ45ギ)

三佐川 稔 (ノ45ギ)

築田 満 (ノ45化)

後藤 晃 (ノ45ゾ)

原 彰彦 (ノ46ゾ)

中林 重雄 (ノ47ギ)

目黒 敏美 (ノ47ギ)

近江 政斗 (ノ47食)

吉水 守 (ノ47食)

黒瀬 道則 (ノ47ゾ)

土谷 俊一 (ノ48ギ)

坂本 幸造 (ノ48食)

吉田 正人 (ノ48ゾ)

○吉野 威 (ノ49ギ)

二瓶 幹雄 (ノ50食)

上戸 慶一 (ノ50化)

長谷川 栄治 (ノ52食)

上野 孝雄 (ノ53ギ)

蛇沼 俊二 (ノ53ギ)

上野 久仁夫 (ノ53化)

備前 悟 (ノ53化)

広崎 淳一 (ノ55ギ)

正木 悦郎 (ノ55ギ)

宮岡 秀昌 (ノ55ゾ)

西川 正一 (ノ56ギ)

種田 貴司 (ノ56食)

藤田 公美 (ノ57ギ)

小林 良一 (ノ57食)

佐藤 友則 (ノ57食)

嶋田 隆司 (ノ57化)

学外幹事

阿部 純也 (ノ58ギ)

横山 信一 (ノ58ギ)

佐藤 直孝 (ノ58食)

吉岡 武也 (ノ60食)

今野 伸 (ノ62食)

宮崎 永司 (平1ギ)

柳町 也 (ノ4化)

阿部 慶太 (ノ5化)

第95回 北水同窓会定期総会報告

地方理事

(稚内)	風 無 成 一 (昭41ギ)	(釜石)	高 橋 禎 (ノ56ゾ)	(三重)	未 定
(留萌)	祐 川 正 幸 (ノ48ゾ)	(仙台)	佐 藤 秀 雄 (ノ42ギ)	(大阪)	田 中 文 夫 (ノ50食)
(紋別)	片 岡 靖 (ノ42ゾ)	(石巻)	小 池 幾 世 (ノ53ギ)	(兵庫)	中 岸 明 彦 (平元ギ)
(網走)	石 山 和 行 (ノ52ギ)	(気仙沼)	千 葉 敏 朗 (ノ46ゾ)	(和歌山)	丸 山 清 重 (昭55ゾ)
(根室)	吉 川 正 基 (ノ52ゾ)	(福島)	高 越 哲 男 (ノ44ゾ)	(鳥取)	山 本 栄 一 (ノ52ゾ)
(釧路)	○穂 積 明 (ノ40ギ)	(茨城)	山 崎 耿 二 郎 (ノ40ゾ)	(岡山)	鈴 木 伸 一 (ノ50ギ)
(旭川)	齊 藤 隆 司 (ノ46化)	(栃木)	大 友 時 夫 (ノ44ゾ)	(広島)	○羽 原 浩 史 (ノ55化)
(十勝)	佐 藤 裕 (ノ24セ)	(埼玉)	吉 川 晴 二 (ノ41ゾ)	(鳥根)	○児 玉 太 一 (平12生)
(苫小牧)	木 村 実 (ノ48食)	(館山)	安 田 健 治 (ノ56食)	(関門)	萬 年 信 一 (昭37エ)
(室蘭)	矢 島 清 孝 (ノ45食)	(銚子)	山 口 隆 夫 (ノ53化)	(香川)	小 野 知 足 (ノ34ゾ)
(札幌)	林 和 明 (ノ38ゾ)	(千葉)	萬 上 聰 一 郎 (ノ42ゾ)	(愛媛)	桑 原 彰 三 (ノ53ゾ)
(札幌)	眞 田 篤 弘 (ノ43化)	(東京)	菊 本 肇 (ノ40ギ)	(徳島)	小 黒 美 樹 (ノ23セ)
(札幌)	村 井 裕 茂 (ノ45ゾ)	(神奈川)	金 庭 正 樹 (ノ57化)	(高知)	蒲 原 幸 男 (ノ49ギ)
(小樽)	村 松 裕 史 (ノ54食)	(新潟)	宮 島 英 雄 (ノ42ギ)	(福岡)	未 定
(余市)	○宇 藤 均 (ノ45ゾ)	(長野)	小 野 里 坦 (ノ37ゾ)	(佐賀)	未 定
(青森)	佐 藤 立 治 (ノ36エ)	(静岡)	三 野 勝 廣 (ノ44食)	(長崎)	○渡 辺 康 憲 (ノ51化)
(八戸)	遠 藤 一 (ノ40セ)	(富山)	宮 崎 護 (ノ41セ)	(熊本)	安 田 広 光 (ノ58食)
(秋田)	山 内 寿 一 (ノ48ゾ)	(石川)	○中 道 五 郎 (ノ39ゾ)	(大分)	武 田 晴 美 (ノ56ギ)
(村山)	山 田 彰 一 (ノ40ゾ)	(福井)	○大 泉 徹 (ノ54食)	(宮崎)	未 定
(庄内)	村 井 太 郎 (ノ50ギ)	(愛知)	○山 口 皓 (ノ44エ)	(鹿児島)	松 岡 達 郎 (ノ52ギ)
(盛岡)	奥 山 勇 作 (ノ54ゾ)	(京都)	○近 藤 忠 裕 (ノ54化)	(沖縄)	渡 辺 利 明 (ノ52ゾ)
(宮古)	和 田 秀 雄 (ノ60ギ)	(滋賀)	澤 田 宣 雄 (ノ57ゾ)	(韓国)	○李 春 雨 (平3博ギ)

平成27年度 編集部予算案

(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日 (締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
305号	平27年8月末 (7月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
306号	平28年2月末 (1月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
合計		64	17,000	2,000,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

平成27年度 組織部予算案

(名簿会計)(資料8)

	項 目	予 算 額	摘 要
収 入	前 年 度 繰 越 金	1,984,347	名簿積立金
	一 般 会 計 予 算 繰 入	1,200,000	
	名 簿 広 告 料	1,500,000	
	合 計	4,684,347	
支 出	名 簿 印 刷 費	3,500,000	
	通 信 ・ 運 搬 費	300,000	
	次 年 度 繰 越 金	884,347	
	合 計	4,684,347	

会則(第4章第7条関連)改正案(資料9)

北水同窓会会則の一部について、下表右欄(「現行」欄)を、同表左欄(「改正後」欄)のように改正する。

※下線部分は、改正箇所を示す。

改正後	現 行
(略)	(略)
<p>第4章 役員及び役員会</p> <p>第7条 役員は総会に於いて原則正会員中より選任する。但し顧問は会長推薦し、総会に於いて承認したる者。名誉会長は学部長を推薦し、副会長及び地方理事は正会員中より会長が委嘱し、代表理事は理事の互選により、幹事長、副幹事長は幹事の互選に依る。幹事には、総会の承認を得た特別会員を選出できる。</p>	<p>第4章 役員及び役員会</p> <p>第7条 役員は総会に於いて正会員中より選任する。但し顧問は会長推薦し、総会に於いて承認したる者。名誉会長は学部長を推薦し、副会長及び地方理事は正会員中より会長が委嘱し、代表理事は理事の互選により、幹事長、副幹事長は幹事の互選に依る。</p>
(略)	(略)
<p>附則</p> <p>第25条 本則は昭和26年4月1日より実施する。 本則は平成17年4月1日より実施する。 本則は平成27年5月23日より実施する。</p>	<p>附則</p> <p>第26条 本則は昭和26年4月1日より実施する。 本則は平成17年4月2日より実施する。</p>

平成27年度 会計部予算案(資料6)

1)平成27年度 一般会計予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収 入	前 年 度 繰 越 金	1,617,977	2,100名見込み
	会 親 潮 広 告 料	8,400,000	
	雑 収 入	180,000	
	合 計	10,297,977	
支 出	親 潮 印 刷 費	2,000,000	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 東京開催 ※
	通 信 ・ 運 搬 費	1,600,000	
	総 会 旅 費	600,000	
	組 織 強 化 費	900,000	
	ホ ー ム カ ミ ャ ン グ デ ー 経 費	300,000	
	備 品 費	0	
	消 耗 品 費	200,000	
	会 議 費	30,000	
	振 替 手 数 料	170,000	
	事 務 嘱 託 費	2,320,000	
	備 人 費	80,000	
	H P 維 持 費	130,000	
	雑 費	20,000	
OA 機 器 整 備 費	50,000		
名 簿 会 計 へ 子 備 費	1,200,000		
合 計	697,977	積立 (資料8)	
合 計	10,297,977		

※総会補助30万円、本部役員会補助10万円、卒業祝い品10万円を含む。

2)平成27年度 OA機器整備費(積立)予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収 入	前 年 度 繰 越 金	218,895	
	一 般 会 計 予 算 繰 入	50,000	
	合 計	268,895	
支 出	次 年 度 繰 越 金	268,895	
	合 計	268,895	

3)平成27年度 特別会計予算案

	項 目	予 算 額	摘 要
収 入	前 年 度 繰 越 金	19,249,980	
	合 計	19,249,980	
支 出	次 年 度 繰 越 金	19,249,980	
	合 計	19,249,980	

○平成27年度 特別会計資産内容

項 目	資 産 額	摘 要
郵 便 定 額 貯 金 1 口	7,204,000	
ゆ う ち ょ 銀 行 預 金	1,114,786	
銀 行 定 期 預 金 (マ リ ン バ ン ク) 1 口	10,931,194	
合 計	19,249,980	

追悼寄稿

富士昭先生(昭24卒)のご逝去を悼んで

五嶋 聖治(特別会員)

北海道大学名誉教授富士昭先生が、平成27年4月4日に永眠なさいました。享年87歳でした。ご遺族のお話によりますと、富士先生の強い遺志によって近親者のみで葬儀を済ませ、ご遺体は医学発展のために献体なされたとのことでした。先生の教えを受けたわたしたちとしては、最後のお姿にお別れを告げたかったという思いではありましたが、いかにも富士先生らしいと納得したしだいです。偲ぶ会などの話は当然出ましたが、これも先生のご遺志ですので、それぞれの関係者が集まった時々にご冥福を祈るということにさせていただきました。



富士先生は昭和27年から38年間の永きにわたり北大水産学部教官をお務めになり、平成3年に教授職を定年退官されました。この間、研究面ではさまざまなベントスを対象に生態学的・水産増殖学的研究に従事されました。中でもシジミやウニ類の生態学的研究は、先生の研究初期の輝かしい業績を飾るものです。特にウニ類の生物学に関する一連の研究業績は、再生産機構から、分布要因、エネルギー収支に至るまで、生態学的、増殖学的研究を展開し、その知見はウニ類の生物学分野はもちろん、浅海域のウニ類増殖事業にも欠くことのできないバイブル的存在として現在もその輝きは失っていません。これらの業績をもとに昭和47年には日本水産学会奨励賞を受賞されました。研究者ならどなたでもそうでしょうが、学位論文となった研究は若いときのさまざまな研究面の苦労や疑問解明の喜びが込められております。富士先生が学位論文であったウニ類の研究のお話をされる時の、やさしい微笑みを浮かべて静かに語られた姿が目には浮かびます。きっと多くの御苦労と研究の喜びがあったのだろうと推察しております。

おそらく研究者としてもっとも油の乗り切った時代に行われた研究は、生産生態学的手法を用いて漁場の増養殖許容量を検討したものだと思います。特に、ホタテガイを対象にサロマ湖や噴火湾における垂下

養殖の許容量を、エネルギー収支をもとに環境収容力の観点から検討を積み上げた解決手法は、おそらく世界で最初に養殖現場に導入された例のひとつだろうと思います。この手法によりホタテガイ養殖現場の養殖量上限を推定し、それ以内の数量で養殖を行うよう漁業現場に提言なさいました。その推定値は現在でもほとんど変わらず適用されているのを見ても、その当時の先生の考え方と推定値の正しさが立証された結果だと思えます。

この生産生態学的手法による許容量推定の考え方は、外海におけるホタテガイの放流許容量の算定にも応用されることになったのです。それは先生が御退官なされた後の業績となります。富士先生を委員長として、オホーツク海におけるホタテガイ地まき放流漁業の現場での放流許容量を推定するという気の遠くなるようなプロジェクトでした。ただし、考え方は垂下式漁業と同じで、漁場でのエネルギーの供給量と生産のための必要量の収支バランスを図るというものです。数年間の調査研究の結果をもとに、単位面積あたりの放流個体数を先生自ら算出されました。その時、思わず先生に伺いました。最後の許容放流個体数の値を出すときに鉛筆をもつ手が震えませんか。なにしろ、実際の許容量より少なく見積もれば漁獲量は少なくなるし、多く見積もれば単価の安い小型貝が生産されてしまうし、いずれにしてもその算定値が数百億円規模のホタテガイ漁業の行く末を左右するかもしれないのです。しかし、先生は何事もないかのように、「理論上そうなるという計算結果だから、なんともないよ」と事も無げにおっしゃいました。真理を探究する研究者ならさもありなんと深く感銘を覚えたものでした。最後まで研究者であった先生でした。算出された許容量は現在でも守られており、北海道ホタテガイ漁業の理論的支柱となっております。

最後に、先生が講座誌「かんよう」に書き残された旧鹹水増殖学講座の将来に関する言葉を紹介しペンを置くことにします。「時勢におもねることなく、生態学本来の道筋を着実に歩む泥臭さを変えることなく、一層泥臭くなるよう願っているし、また、そのように発展してゆくことを確信している」。わたしたちはどこまで先生の確信に迫れているだろうか、自問するところです。

富士先生、本当にありがとうございました。そして安らかにお眠りください。

福田裕さん(昭44化)を偲ぶ

松原 久(昭58食)

昭和44年度水産化学科高分子化学講座卒の福田裕さんが平成26年11月13日に亡くなられた。享年68歳であった。

私が昭和58年度に水産食品学科を卒業し、青森県に採用され八戸市の水産物加工研究所に赴任した時、福田さんは化学試験部の中堅職員として活躍されていた。5年間の加工研勤務のうち、2年間同じ部で研究方法、論文の書き方等はもちろん、北水同窓会八戸支部事務局、朝野球、スキーに至るまでご指導いただいた。特にスキーでは「この職場に来たからにはスキーをしないでは済ませられないよ。」と簡単にだまされてしまった。ご自身がスキーの指導員であり、八戸スキー愛好会を創設していたことからの勧誘に違いなかった。お陰様でそれまで大嫌いだっただ冬を楽しく過ごせるようになり、今では大変感謝している。私が転勤してからも研究、スキーを通じておつきあいをさせてもらった。やがて福田さんは博士号を取得し、国の東海区水産研究所、今の中央水産研究所に移られた後、上海大学、養殖研、中央水産研究所利用加工部長、水産大学教授、東京海洋大学特任教授等を歴任され、日本の水産加工研究に大きな足跡を残したと同時に多くの研究者を育てた。私もまたいろいろな研究プロジェクトに誘っていただき、多くのことを学ばせていただいた。

福田さんは研究にも遊びにも手を抜かず、常に走り続けた。いつか「アメリカドラマ24のジャックパウアーみたいだ」とか、「生き急いでいるように見える」などと話したことがある。平成26年9月に佐賀県で開催された冷凍空調学会では、私の発表の次が福田さんの番だった。お互いの発表に対して楽しく質問の応



酬をさせてもらった。しかし、その夜は体調が優れないとの理由で福田さんは珍しく懇親会を欠席された。10月の東北マリンサイエンス事業研究運営委員会は欠席された。その時初めて福田さんが仙台で入院されていることを知った。11月には奥様から「もう時間がない」との連絡を受け、翌日、東北大学病院に駆けつけると福田さんは笑顔で病室に迎え入れてくれた。「松原君、私は読みたい本も、やりたいこともまだまだたくさん残しているが、もうあまり時間がないようだ。もう食欲もないし、これからどんどんやせていこう。やせ衰える前に会えてよかった。思えばずいぶんわがままを通させてもらった。君も自分の信じる道を行け。人類が誕生してから多くの人が生まれ、そして死んでいった。そのすべての人たちは偉大だと思う。私はまだその覚悟ができていない。しかし、私は私の人生に悔いはない。」そう言う福田さんに「福田さんがわがままであることは否定しないし、付け足すとかなり欲張りだ。」と言って私は笑ったが、その優しさにはずいぶん救われてきた。

八戸に帰って数日後、訃報が届いた。中国や日本中を旅してきた福田さんの告別式には出たくても出席できない方々が多くいたと思う。告別式を覆い尽くした生花がそれを物語っていた。

私は福田さんの写真を机に飾っているが、未だに現実を受け入れることができない。

追悼寄稿

遠藤元文君(昭44エ)を悼む

内藤 義和(昭44ギ)

あと数日で年が変わろうとする平成26年12月28日正午過ぎでした。妙に遠藤君のことが気になり、久しぶりに声を聞こうとお宅に電話したところお嬢さんが出られ、一瞬の沈黙の後沈んだ声で彼の死を知らされました。



わずか二日前の12月26日に亡くなられたとのことで、その日は告別式当日で「間もなく遺骨になって家に戻って来るころです」と告げられ、衝撃で暫し声を発することも出来ませんでした。

遠藤君は昭和40年旭川東高校から北大水産学部へ入学され更に特別専攻科へ進み、卒業後は東京商船(株)をへて国鉄青函局に入社されました。その後国鉄民営化に伴い青函連絡船が廃止されたため海員学校(現海上技術学校)へ移り、各地(村上、宮古、館山、小樽等)に勤務され、小樽海上技術学校勤務を最後に定年退職されました。

国鉄青函局では青函連絡船の一等航海士まで昇進し、間もなく船長に昇格すると言ったときに青函航路が廃止されそのチャンスが潰れたことを後年残念がっていました。この時彼は管理職として民営化に伴う嵐で次々にリストラされていく部下のため、彼らの再就職先の斡旋など最後まで残り苦勞されていたようです。

50代半ばを過ぎたころだったと思いますが、宮古海員学校勤務の時期に大腸がんを発症し切除手術を受け、その後順調に過ごされ完治したかに思われた数年後無念にも再発転移が見つかり、今日まで抗がん剤や放射線治療など様々な医療を受けておられました。

彼との出会いはもう50年も前の学生時代にさかのぼりますが、今でもその頃の光景を鮮やかに思い出することができます。

遠洋航海などで長期間寝食を共にしましたが、彼は

エネルギーでいつも話題の中心人物であり、今も残る数々の伝説(紹介できないものも多いですが)を生み出した人気者で、同期生は勿論彼と接点を持った者たちの心の中に現在も数々の愉快的思い出を残して残っています。

遠洋航海の途中、南方の島で彼が何処からか大きいヤシ貝を物々交換で沢山仕入れてきたことがありました。大汗かいて持ち帰ったそれを気前よく仲間に配ってしまい、「自分の手元には1個も残ってない」と後年ぼやいておりました(拙宅にはその内の1個が有ります)。最高に切れる頭脳で損得勘定をしているつもりでも結局最後は損をしているそんなお人好しな男でした。

試験の時などは何処からか情報を集めてきて皆に教えてくれたものです。卒業後それぞれ違う道に進みましたが、共に函館に家を持ったことから家族ぐるみのお付き合いをさせていただきました。

「チョイ悪おやじ」を気取っている彼でしたが家族に対しても実に優しい男で、今どきの「イクメン男子」の上を行く愛妻家で子煩悩でした。奥様と二人三脚で1男2女を育て上げ、現在ご長男は医師に二人の御嬢さんもそれぞれに社会的に尊敬される職業についておられ、彼の遺伝子は確実に継承されています。

一見偉そうな態度に見られることもある彼でしたが、強がりな彼は独特の表現方法で、その実は寂しがり屋で照れ屋な本当に優しい男でした。

遠い昔、二人で国家試験を受けるため塩釜に行く途中、物見遊山気分であ森浅虫温泉経由(旅館でホヤを食し、ジンマシンを発症して大騒ぎした)にて塩釜に数日滞在したこと、数年前二人でがんに効くという長万部の湯治場に酒を数本持参して幾日かを過ごしたことなど、50余年間の思い出が走馬灯のように目に浮かび、いろいろあれこれ寂しい思い出です。

長年の闘病、お疲れ様でした。

何時か何処かでまた会えるだろう、友よ安らかに眠れ

クラス会
報告昭和32年卒同期会
三浦半島油壺

今井 輝(昭32ゾ)



前列向って左から 川村、吉村、藪口、進藤、杉田、三幣
後列向って左から 高野、石田、今井、池田、上島、小泉
倉本、大野

と き 2015.5.25~26

ところ ホテル京急油壺 観潮荘

風光明媚な油壺に懐かしい学友の姿を求めて、三々五々集まった14名。

皆80余の年輪を刻んだ顔を喜色満面にして、拍手と握手の歓迎を受け、ホテル観潮荘に旅装を解いた。

我が32年卒同期会は、近年隔年開催してきたが、昨年の松島では「2年も待てない、今回は来年だ」となり、今回の催しとなった次第である。

相模湾が幻想的変わりつつある夕刻、懇親会場に集合、昨年訃報が伝えられた真坂洋輔君、村上恵君の最期について、大野、三幣両君がそれぞれ報告、一同黙祷し冥福を祈った。

幹事代表の杉田君から、今回参加出来なかった学友の近況が報告された。本人の体調不良、家族の療養介護等が大部分を占め、高齢化社会の実情を垣間見たところである。

毎回出席者が数名ずつ少なくなる現実を前に「今回をもって同期会の終了」が提案され、予想されたこととはいえ一同認めざるを得なかった。

池田君の発声で宴会が始まり、山海の珍味に舌鼓、美酒が廻るにつれ次から次へと話題が展開した。

札幌・函館時代の数々の楽しかった事やほろ苦い思い出、就職したての失敗談に自慢話、壮年期から

熟年時代の自信に満ちた躍動と挫折、そして再起等々延々と語り尽くした。又各々が少なからず抱えている健康問題も豊富な経験談を交えて語られた。

思えば我々が経験したこの60年、戦後の復興期から産業の発展、社会・政治状況の変貌は著しいものであった。水産界においても、獲る漁業から育てる漁業へと替わっている。学生時代に西浜岸壁で勇壮な母船式北洋船団を見送った事など、とうの昔の物語となってしまった。

サケマスは勿論鯨、マグロなど遠洋・近海漁業を問わず、今や地球規模の資源管理、絶滅種保護が叫ばれる時代になった。

三崎マグロとして日本有数の基地ここ油壺も、その影響からか街に活気が乏しく感じられたのは、小生の思い過ごしだろうか。

これからの水産界の発展は、新たな段階にさしかかり、我々の後輩に託すことになるのである。

「学友との語らひも今宵が・・・」の思いを秘めながら、「都ぞ弥生」を唄うのも忘れて夜の更けるまで、延々と語り続けた。

なお小生、二日前の「第95回北水同窓会総会(札幌市)」に出席した折、S.23年卒や28年卒の大先輩が、元気な姿で多数出席しており感銘を受けた。従って5年後の2020年に開かれるであろう「第100回北水同窓会総会」に、矍鑠たる姿で出席する夢を述べ、皆の賛同をいただいた。

5年後を目標に体力・気力の劣化速度をダウンさせ、多くの学友と共に是非出席したい。

翌26日、別離の朝を迎えた。昨夜の余韻の残る中、横須賀・鎌倉を周遊するものを除き、数名が帰路に着いた。

幹事手配のマイクロバスは快晴の三浦半島を走り、日本海海戦の記念艦「三笠」を見学、昼食後本邦最大級の木造観音を祀る名刹「鎌倉長谷寺」を拝礼、横浜駅で解散した。

今朝同様、最後の挨拶はお互い顔を見つめ、堅い握手で長い友情を確かめ合い、言葉も少なく別れた。

今回の同期会は東京32年會に多大のご配慮を戴いた。特に杉田、小泉、藪口、三幣の幹事の皆さんに

クラス会
報告

は我々の気持ちに沿った企画・立案・実行と誠に完璧、深く感謝する。

後日、杉田君達の調査の結果、同期の桜が40余名生存していることが明らかになった。嬉しい限りである。

40余名の学友よ、我々の人生第四楽章が、有意義で楽しいものであることを祈念して拙い筆を置きます。

(2015.6.9)

北水同窓会青森支部
平成27年総会・懇親会

山口 伸治(昭49化)

今年の青森市は雪が多く、1月下旬までの降雪量が平年比1.6倍、4メートルを超えており、雪片付けに追われる毎日となっています。

さて、平成27年2月7日(土)、支部会員36名の出席のもと、青森市の「ラ・プラス青い森」にて北水同窓会青森支部平成27年総会・懇親会が開催されました。

総会では、始めに昨年亡くなりました渡辺幸造氏(昭62ギ)のご冥福をお祈りし黙祷が捧げられました。

次に、田中淳也幹事(平8化)の司会進行のもと、松宮隆志支部長(昭53ゾ)の挨拶、新会員の紹介後、菅野溥記氏(昭37ゾ)を議長に選出し、平成26年収支決算報告及び平成27年予算(案)並びに支部規約の一部改正(案)の審議が行われて承認されました。今回の規約の一部改正により、かつて本学で教鞭に就かれておられました(国法)弘前大学食料科学研究所長嵯峨直恆氏と(独法)海洋研究開発機構むつ研究所長渡邊修一氏が当支部の特別会員にられました。

引き続き、記念写真を撮影した後、若井佳久幹事(平12海)の司会進行のもと、斎藤健氏(昭23ゾ)の元気な乾杯の発声で懇談会がはじまり、出席者全員

から近況報告などが行われました。今回は新会員を含めて若い方々の出席が多く、OBの方々と旧友を温め、魚と今年の干支の羊のとおり、鮮やかで大いに盛り上がりました。

最後に出席者全員で肩を組みながら輪になって、吉田由孝氏(昭56ゾ)の前口上で「水産放浪歌」を、二本柳茂氏(昭57ギ)の前口上で「都ぞ弥生」を大合唱した後、池田康副支部長(昭51ギ)の中締めの三本締め、筆者の山口伸治幹事長(昭49化)の万歳三唱で閉会となりました。来年も多くの皆様の参加を期待しています。



○集合写真のお名前

- 1列目左より
秋葉文和(昭37ギ)、高橋邦夫(昭28ゾ)、佐藤立治(昭23遠)
山形實(昭23ギ)、松宮隆志(昭53ゾ)、斎藤健(昭23ギ)
渡邊修一(特別会員)、菅野溥記(昭37ゾ)、又井一宣(昭37ギ)
- 2列目左より
吉田由孝(昭56ゾ)、平野忠(昭46ゾ)、小谷みつ子(平19生)
伊藤博夫(昭41ギ)、今井美代子(昭56化)、原田健二(昭47ゾ)
安田明弘(昭53化)、前多絢子(前多氏の奥様)
- 3列目左より
田中淳也(平8化)、二本柳茂(昭57ギ)、宮部好克(平25応生)
足助光久(昭40ゾ)、横山勝幸(昭41ゾ)、大嶋聡平(平25海資)
池田康(昭51ギ)
- 4列目左より
小谷健二(平13生)、水木裕(平23海資)、天野勝三(昭54ゾ)
野呂恭成(昭57ゾ)、福田覚(平15博水産)、工藤敏博(昭56化)
二木幸彦(昭56ギ)、前多隼人(平15海資化)
- 山田伸治(昭49化)
- 5列目左より
吉田達(平元ゾ)、若井佳久(平12海)

北水同窓会東京支部
平成27年度 定期総会&新年会

浜谷 一郎(昭51化)



平成27年2月2日(月)18時30分より、銀座ライオン(6F)クラシックホールにて北水同窓会東京支部の定期総会及び懇親会が開催されました。

会は樋口 達夫 支部長(昭50食)の挨拶に続き、細見 典男 副支部長(昭48食)による乾杯の発声で賑やかにスタートし、そこかしこで一年振りの再会を喜び、会場の定員キャパをはるかに超える138名という過去最多の参加者で例年以上の熱気に溢れていました。

途中、「会員活動紹介タイム」と称する企業や自分の現在担当している仕事の紹介が若手のパワフルな我が北水の4名の会員によって行われ、会場の注目を一身に集めていました。

この様に年々盛んとなる東京支部定期総会の盛況の要因は各会員、会員企業の協力の下、ベテラン、若手、女性の参加会員のバランスが程良く取れ、年代を超えた交流がごく自然に出来てきた事が大きいのではないかと思います。

また司会より昨年12月7日(日)の横浜港大棧橋でのおしよる丸V世の首都圏での大盛況だった見学会の様子も樋口支部長からの差し入れ贈呈の写真も交え報告されました。

この様に楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は参加者全員が肩を組み「水産放浪歌」「都ぞ弥生」の大合唱で最高潮に達したところで、菅原 謙二 副

支部長(昭51ギ)の中締めで宴は閉会となりました。

尚、次年度の東京支部定期総会は北水全国定期総会との併催となる為、例年の2月から5月の開催と変更される事と詳細は改めての案内となります事この紙面を借りて報告をさせていただきます。

平成27年北水同窓会釧路支部総会

工藤 伸一(昭54ギ)

平成27年6月13日午後6時より、北水同窓会釧路支部総会が釧路市内の「アクアパール」にて行われました。

総会には13名の同窓が出席され、穂積支部長(昭47ギ)挨拶の後菅原監事(昭51ギ)の音頭で開宴しその後は出席者の近況報告等を行いました。

釧路支部は平成25年に清水前支部長(昭36エ)が転出された後、昨26年に穂積新支部長他新役員が就任しました。昨年は6月に17名の出席で支部総会を行ったほか、11月に21名の出席で12年ぶりとなる「おしよる丸入港歓迎会」を行いました。今後も定期的に支部会を開催し、またおしよる丸入港時には、歓迎会を開催する予定であります。

支部会は最後に全員で「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を歌唱し散会しました。



- 前列左から
高柳志朗(昭55ギ)、穂積明(昭47ギ)、工藤伸一(昭54ギ)
針生勳(昭49増)、佐藤秀行(昭50ギ)
- 後列左から
森内学(昭63ギ)、松館浩二(昭59ギ)、千葉喜平(昭50増)
神田雄巳(昭55食)、横内克己(昭54ギ)、野沢恒雄(昭50ギ)
三橋正基(昭58ギ)、菅原隆三(昭51ギ)

寄稿

29年振り「おしよろ丸」大阪港寄港

北水同窓会大阪府支部 藤井 英嘉(昭61ギ)



…雨降らば 雨降るもよし 風吹かば 風吹くもよし…
本当に台風11号が関西にやって来るのと時、同じくして、おしよろ丸V世が来阪して頂きました。青春の思い出と共に…。

2015年7月14日天保山大観覧車の横に接岸し、翌15日内覧会&懇親会です。待ちわびる、北水同窓会・大阪府支部会員は居ても立ってもおられません。29年前の寄港を想い出します。

当時は、おしよろ丸IV世です。その頃、大阪府支部の活動が停滞した状況でしたので、歓迎会について、当時30代の卒業生約10名が中心になって歓迎会事務局を作り対応しました。会場は「うおまん・トップラウンジ(中之島センタービル)」を設定。初めての歓迎会で、いきなり100名規模で開催出来たことは、おしよろ丸寄港のインパクトがどれだけ強いかと言うことでした。この当時発足の事務局が、その後の大阪府支部の礎となりました。以後、ここ「うおまん・トップラウンジ」で2年に1回、大阪府支部総会をするようになります。言い換えれば、おしよろ丸は支部再興の恩人です。

その思い出の有るOB達は「今回はもっとな!!」と意気盛んです。しかし、台風接近…。心配に心配を重ね、祈る思いの寄港でした。

動きの変わる台風情報、出席者の人数調整等々、苦勞して準備を進めます。そして何とか台風が来る前の7月15日13:00～、内覧会が開催されました。

今回のおしよろ丸V世は、竣工:2014年7月28日。32年振りの新造船です。

内覧会で、高木船長の弟「高木正夫」さんが来て頂け

ました。この高木ご兄弟は、兄はおしよろ丸V世の船長になり、弟は、京都府立海洋高等学校の海洋工学科(航海船舶コース)の教諭です。どちらも船乗りを全うして居られます。どちらの顔も、未だ青年そのもの。素晴らしい兄弟です。

ところで、私達の頃と違い、最近の水産学部は女学生が増え、また、同船する他大学の女学生も多く居ると言う事です。実習の有る時は、他の大学が同船して女性が半数を占める事も有るとも聞きました。今回のおしよろ丸V世でも、2等航海士の女性が居られました。時代の推移を、この船の運航状況からも感じ取れます。

いよいよ懇親会が始まります。懇親会会場は、「ホテルシーガルトンぼうざん大阪」です。懇親会は18時から始まります。出席者は、高木船長以下乗組員21名を含め、98名に及ぶ大懇親会となりました。OBの皆さんワクワクです。

北水OBは62名出席。大阪、奈良、兵庫、京都、滋賀、和歌山のほか、遠く高知、岐阜、愛知からも来ていただきました。また、北海道大学関西同窓会からも15名(水産以外)の出席を頂きました。大変、有難い事です。

船員を知る人、知らない人、おしよろ丸に乗った人、初めて見学した人、そのご家族…大宴会となりました。皆の顔は満面笑顔です。酒と食事、談話が弾みます。

司厨員の高橋勉さんなどは、約30年前、私がこの前船(おしよろ丸IV世)の処女航海に乗船した折りにお世話になった船員さんです。その当時、舞鶴沖でスクリューに密猟の漁網が絡まり、巡視艇に曳航され、舞鶴港に入港しました。そこで1日間、ダイバーが漁網を外して居る間に、学生は三々五々、京都の町に消えて行きました。

ところで、ここで一つ、大問題が有った事をご報告しなければいけません。この会場は、ホテル入口ホール側の為、マイクが使えません!!。また、歌は一切禁止!!です。これは大変な事です。そこで、事前に話し合いを行いました。「スピーチは基本的に多く必要無いので、大丈夫だが、歌はどうする!」「写真だけ中で撮って、外(岸壁)に出て、心行くまで歌うか!」「いやいや、酔っ払って、わざわざ外に出ると、收拾がつかない。酔いが醒める。」「集合写真を中で撮って、その後、いっその事、強行突破して、止められるまで歌うか!」「…賛成!!!」と言う事で、歌を強行する事となりました。そして、あわ良くば、「都ぞ弥生」、さらに続け

れば…。これは、「歌テロ」です。

集合写真も撮り終わり、さあいよいよ「歌の時間」です。…緊張が走ります…ホテルの従業員も何故か緊張が走ります…「写真の為に、机とイス片付けたけど、円陣組んで…何?? 何??」…。

歌が始まりました。恐らく、ホテル関係者の人も聞いた事が無い、異様な雰囲気です。前口上が始まり、円を作って歌い出す。肩を組み、全員が船のように揺れ出す。

ホテル宿泊の韓国人・中国人・欧米人、そしてホテル従業員まで「あ然!」となります。何とか、水産放浪歌、都ぞ弥生、共に阻止されず、懇親会は無事終了しました。その後、会場外では、有志16人で「ストーム」も始まり、熱気一杯でした。帰り道、夜の海に停泊するおしよろ丸V世の横を通り過ぎました。昼とはまた違う顔をしていて、綺麗です。

その夜から台風11号が関西で本格的に猛威を振るい始めました。大阪府港湾からの指示で、高木船長は、暴風雨災害警報が同時に出れば1000トン以上の船は湾外停泊し、そのまま出港しないといけません。そんな中、異常にゆっくりとした足取りで、不気味に関西に接近する大型台風が走ります。

運良く、近畿一円に出た暴風雨災害警報は、大阪府だけ奇跡の注意報となり、おしよろ丸V世は天保山停泊が許されました。しかし、出港を19日10:00遅らせたが台風はまだ中国地方に居ました。そんな状況だったにも拘らず何とか、おしよろ丸V世は、天保山を予定通り出港して行きました。見送りに、歓迎会時に高木船長から贈呈された「まっさらの北水旗」を振って7名が見送りました。…見送り人:「田中文夫S50」「北出弘S52」「西本恵市S54」「佐々木雅人S56」「藤原匠逸H13」「多田知世H21」「辻村浩隆H10」。

台風の為、名古屋支部の方には申し訳有りませんが、名古屋入船が遅れる事となりました。名古屋懇親会に船が間に合わず、「梶原善之S54特設専攻科了・次席一等航海士」「星直樹H12特設専攻科了・首席二等航海士」2名が名古屋懇親会出席の為、これも交通遮断心配な新幹線で名古屋に単身向かわれました。

…雨降らば 雨降るもよし 風吹かば 風吹くもよし…
その通り、波乱万丈な、今回の大阪湾(天保山)寄港は終わりました。

■行事実施詳細
おしよろ丸V世内覧会: 来場者141名(内同窓関係者118名)
主催: 北海道大学水産学部
日時: 平成27年7月15日(水) 13:00~16:00
場所: 大阪港天保山埠頭

■おしよろ丸V世歓迎会: 参加者98名
主催: 北水同窓会大阪府支部
日時: 平成27年7月15日(水) 19:00~21:00
場所: ホテルシーガルトンぼうざん大阪

■歓迎会参加者名簿 合計 98名
北水同窓会大阪府支部: 49名
藤井 明(昭36セ)、大野 正浩(昭36セ)、吉川 圭一(昭44遠洋)、米谷 孝治(昭44食)、入江 和彦(昭45ギ)、上田 稔(昭45化)、林 良方(昭45ギ)、江島 新(昭46化)、西川 一義(昭46ジ)、山仲 春男(昭46食)、大谷 令二(昭47ギ)、島田 好彦(昭47ギ)、藤田 信良(昭48ギ)、岡本 洋一(昭48ギ)、松本 俊郎(昭48入水)、田中文夫(昭50食)、室井 智子(昭50食)、中川 武司(昭50ギ)、玉置 純(昭51ギ)、大村 泰治(昭51食)、大村氏典様、北出 弘(昭52ギ)、中進作(昭53化)、金子 哲郎(昭54食)、石田 浩平(昭54食品)、西本 恵市(昭54ギ)、殿井 鉄夫(昭55ジ)、大橋 人司(昭56ギ)、佐々木 雅人(昭56化)、鈴木 偉生(昭56ギ(特専))、楠山 仁志(昭59ギ)、藤井 英嘉(昭61ギ)、吉田 幸治(平元ギ(特専))、林田 健(平3ギ)、吉村 直孝(平3ジ)、川邊 一郎(平3ジ)、若 眞由(平5食・食)、新瀬 幾恵(平7ジ)、堀越 光晴(平8ギ)、藤原 匠逸(平13生産)、尾上 律子(平14資)、占部 正悟(平17資)、鈴木 潤一(平17シ)、櫻井 遥平(平19生)、多田 知世(平21生)、柏尾 翔(平22海生)、中村 拓洋(平22海生)、森 直哉(平22増生)、松川 広輝(平26院・応生)

■北水同窓会他府県支部: 13名
今野 英一(昭39ギ)、西澤 孝史(昭63ギ(特専))、中野 丘三(昭39ギ)、石田 眞(昭48ギ)、高木 英男(昭59ギ)、中岸 明彦(平元ギ)、山崎 晃佑(平26資)、丸山 清重(昭55ジ)、山名 裕介(平21生・博)、山口 皓(昭44遠洋)、神保 重孝(昭54ギ)、土屋 康弘(昭52ギ)、石川 佳男(昭53化)

■北大関西同窓会: 15名
福田 文治(昭26農化)、菊池 康基(昭33理動物)、山田 正幸(昭37薬)、石澤 登(昭37農化)、天知 輝夫(昭38農化)、和田 武夫(昭40農化)、日沖 勲(昭40農工)、松代 徹也(昭40農化)、松本 直彦(昭40獣)、伊藤 靖久(昭42工建築)、前田 直臣(昭43理高)、三津 正人(昭45農工)、煙山 孝(昭46工精密)、松下 秀之(昭54農化)、山本 雅彦(昭54農工)

■おしよろ丸同窓生: 7名
高木 省吾S58、S59特設専攻科了、坂岡 桂一郎H01、H02特設専攻科了、梶原 善之S53、S54特設専攻科了、星 直樹H11、H12特設専攻科了、飯田 高大H13、H14特専、H19博士後期課程了、稲垣 祐太H21、H26博士後期課程了、今井 圭理H4、H10博士後期課程了、

■おしよろ丸乗組員: 14名



学位取得者【平成27年3月取得】

市村 政樹	根室地域におけるサケの自然再生産の現状と評価に関する研究
張 越	Survival Strategies of the Sea Snail <i>Nassarius fraterculus</i> (Dunker, 1860) (海産巻貝クロスジムシロの生存戦略)
Irene Dolorfino Alabi	Potential habitat of neon flying squid (<i>Ommastrephes bartramii</i>) in western and central North Pacific from spatio-temporal models (西部・中部北太平洋における時空間モデルによるアカイカの潜在的生息域分布の解明)
Christopher Aura Mulanda	An integrated approach of habitat suitability model for management of Japanese scallop (<i>Mizuhopecten yessoensis</i>) aquaculture: a comparative study in Funka Bay and Mutsu Bay, Japan (ホタテガイ養殖管理のための好適生息域モデルの統合的アプローチ：噴火湾と陸奥湾との比較研究)
高橋 勇樹	CFD解析を用いたオッターボードの設計に関する研究
Vijai Dharmamony	Spawning Ecology And Early Life History Of The Neon Flying Squid (アカイカの繁殖生態と初期生活史)
柳 海均	Laboratory Studies On The Effects Of Temperature On The Early Life Stages Of Japanese Flying Squid And Walleye Pollock (スルメイカおよびスケトウダラの初期生活期に対する水温の影響に関する飼育実験研究)
高橋 一人	フコキシナンチノールの臨床大腸癌および大腸癌細胞株に対する抗腫瘍効果に関する研究
石原 学	魚類卵濾胞における排卵能獲得分子機構に関する研究
Alan Hertz Marin Guerrero	Studies on Mitochondrial Genome for Phylogenetic Inference and Species Identification in Pectinidae (イタヤガイ科貝類の系統推定と種判別に向けたミトコンドリアゲノムに関する研究)
美野さやか	Microbial ecology in deep-sea hydrothermal vents: the population genetics of metabolically unique chemolithoautotrophic bacteria (深海底熱水活動域の微生物生態：新規化学合成独立栄養細菌の集団遺伝)
全 峻瑩	Studies on the Potential of Marine Brown Algae for Antimicrobials and Mineral Supplements (海産褐藻の抗菌およびミネラルサプリメント機能に関する研究)

平成26年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

学部

(株)がまかつ/水産庁/(株)ベニレイ/北海道信用漁業協同組合連合会/(株)ニチレイロジグループ本社/小野食品(株)
青森県漁業協同組合連合会/カネシメ高橋水産(株)/(株)北海道丸和ロジスティックス/静岡労働局/ UCC上島珈琲(株)/(株)セイコーマート
スターゼン(株)/横浜冷凍(株)/鮪 青空/一般財団法人 日本食品分析センター/ひさのモダンダンスアート/セントラルエンジニアリング(株)
(株)フレンテ/(株)エンパイアー/アステラス製薬(株)/ケンコーマヨネーズ(株)/イオンリテール(株)/(株)モンベル/(株)極洋/北海道電力(株)
(株)北の達人コーポレーション/宇都宮市役所/鶴岡市立加茂水族館/ネットヨタ函館/(株)不二家/函館市役所/(株)レブニーズ
駒澤大学附属苫小牧高等学校/石狩市役所/北海道庁/日本道路(株)/浦河町役場/(株)トラストテック/(株)ニチレイフレッシュ
三菱自動車工業(株)/北海道テレビ放送(株)/大和証券(株)/デロイトトーマツコンサルティング

修士

ダイキン工業(株)/太子食品工業(株)/富山県庁/日本郵便(株)/京都府庁/(株)NTTファシリティーズ/水産庁/(株)横浜八景島
ディズニールランド/水産庁/(株)資生堂/ KDDI(株)/日鉄住金物流(株)/ JFE商事(株)/(株)中国放送/(株)がまかつ/北海道漁連/水産庁
北海道庁/羽幌町役場/住友商事(株)/(株)コムデック/(株)パスコ/住友重機械マリンエンジニアリング(株)/レンドリースジャパン(株)
函館市役所/ジャパンマリンユナイテッド(株)/日本たばこ産業(株)/味の素(株)/日本新薬(株)/正田醤油/日本航空(株)/(株)ムトウ
山崎製パン(株)/太陽化学(株)/セイコーマート(株)/(株)アクティオ/小樽市役所/花王(株)/日本農薬(株)/エスビー食品(株)
ケンコーマヨネーズ(株)/アサヒビール(株)/日本たばこ産業(株)/アサヒフードアンドヘルスケア(株)/宮城県(水産職)/マルハニチロ(株)
川カ汽船(株)/東海テレビ放送(株)/フジッコ/月島食品工業(株)/(株)極洋/はごろもフーズ(株)/第一三共ヘルスケア(株)
一般財団法人 日本食品分析センター/ハウス食品工業(株)/(株)えひめ飲料/マルハニチロホールディングス(株)
ストラテジスクマネジメント(株)/ADEKA クリーンエイド(株)/マルハニチロ(株)/日清食品(株)/森永乳業(株)/大塚製薬(株)/日本郵船(株)
(株)東ハト/(株)川本製作所

博士

(株)鉄組潜水工業所/標津サーモン科学館/道立さけます内水面水産試験場/市立函館病院/漁港漁場漁村総合研究所
水産総合研究センター水産工学研究所/日本学術振興会特別研究員PD/栃木県/北海道大学大学院水産科学研究院

会員異動

○平成27年3月31日付 退職

板橋 豊	水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職
岸 道郎	水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職
阿部 拓三	水産学部附属練習船うしお丸助教が退職

○平成27年4月1日付 採用・異動等

齊藤 誠一	水産科学研究院教授が北極域研究センター教授に配置換
亀井 佳彦	水産学部附属練習船うしお丸准教授が水産学部附属練習船うしお丸船長に就任(期間:平成29年3月31日まで)
今野久仁彦	水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
高橋是太郎	水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
飯田 浩二	水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
平石 智徳	水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
笠井 亮秀	水産科学研究院教授に採用
藤田 雅紀	水産科学研究院准教授に採用
美野さやか	水産科学研究院助教に採用
大和田真紀	水産学部附属練習船おしよ丸三等航海士が同次席二等航海士に昇任, 同助教に配置換
今井 圭理	水産学部附属練習船おしよ丸通信士が同助教に配置換
飯田 高大	水産学部附属練習船おしよ丸三等航海士に採用
佐藤 太一	水産学部附属練習船うしお丸二等航海士に採用

○平成27年7月1日付 採用

東条 斉興	水産科学研究院助教に採用
-------	--------------

会員死亡通知

御子柴正紀(昭14セ)	不明	吉田弘司(昭28セ)様より
車谷 実(昭16セ)	平成26年10月15日	ご家族様より
矢野 裕彦(昭16ヨ)	平成26年 9月27日	ご家族様より
柚木 一男(昭18ギ)	平成26年 9月 4日	ご家族様より
松井 義郎(昭20セ)	平成27年 1月27日	ご家族様より
小幡 真策(昭22ギ)	平成26年 5月30日	ご家族様より
中平 放(昭22ギ)	平成27年 5月13日	市川 渡(昭22ギ)様より
西山 作蔵(昭22ギ)	平成27年 3月12日	ご家族様より
松田 勝彦(昭23セ)	平成27年 1月 1日	ご家族様より
片上 信一(昭23ゾ)	平成27年 2月13日	ご家族様より
鹿角 幹夫(昭24エ)	平成27年 2月27日	ご家族様より
菊田 薫(昭24セ)	平成25年 5月19日	ご家族様より
田中 孝(昭24セ)	平成27年 2月 3日	ご家族様より
直江 春三(昭24ゾ)	平成27年 2月27日	青森県支部様より
富士 昭(昭24ゾ)	平成27年 4月 4日	五嶋聖治(特)様より
井上 明夫(昭25ゾ)	平成27年 3月28日	ご家族様より
坂本 守男(昭26セ)	平成27年 5月18日	久保邑男(昭28ギ)様より
浜田 康親(昭29エ)	平成27年 4月16日	ご家族様より
小菅 孝男(昭29セ)	平成27年 6月16日	川原 浩(昭29セ)様より
中村 全良(昭29セ)	平成27年 6月11日	鈴木賢次(昭29セ)様より
及川 哲夫(昭29ゾ)	平成26年 5月 5日	ご家族様より
倉野 堯(昭29ゾ)	平成26年 4月 4日	ご家族様より
増田 昌介(昭31セ)	平成26年 2月	羽田野六男(昭31セ)様より
田村 禮四郎(昭31ゾ)	平成27年 7月11日	ご家族様より
真板 洋輔(昭32エ)	平成26年12月	ご家族様より
村上 恵(昭32エ)	平成27年 2月21日	ご家族様より
佐坂 欣二(昭33セ)	平成27年 5月 7日	伊勢良一(昭26教セ)様より
松下 松雄(昭35セ)	平成26年 6月23日	山田 稔(昭35セ)様より
片倉 玄司(昭36エ)	平成27年 7月29日	飯塚光江(昭36エ)様より
藤井 健太郎(昭36セ)	平成27年 5月18日	林 順司(昭50化)様より
申 鉦涉(昭37セ)	平成26年 9月27日	羽田野六男(昭31セ)様より
安間 元(昭38エ)	平成27年 7月 5日	学内より
寺西 隆(昭39セ)	平成27年 6月 8日	大久保征二(昭39セ)様より
池田 滋(昭42セ)	平成27年 4月13日	山岸義三郎(昭42セ)様より
古田 千代子(昭45化)	平成24年12月	ご家族様より
日置 敏幸(昭45ゾ)	平成26年 8月 6日	ご家族様より
斎藤 千秋(昭46ゾ)	平成27年 1月22日	ご家族様より
陸田 彰(昭47化)	平成27年 1月28日	ご家族様より
内海 和久(昭48食)	平成26年 5月	ご家族様より
首藤 照信(昭49食)	平成27年 1月11日	ご家族様より
児玉 康則(昭50ギ)	平成26年 3月28日	ご家族様より
蝦名 裕志(昭50食)	平成27年 3月	佐々木誠(昭50食)様より
岩見 史郎(昭61食)	平成26年 9月15日	ご家族様より
池亀 啓太(平21資)	平成27年 7月29日	高橋是太郎(昭50食)様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

【編集後記】

平成27年度「親潮」第1号(通算305号)をお届けします。

記事でも紹介したように水産学部管理研究棟が全面改築され、7月3日に竣工式を迎えました。多くの教員、事務の方々が新しい建物への移動や物品の設置などで忙殺されましたが、従来よりも快適な環境下での業務がスタートしております。次号では新装なった管理研究棟について詳しく紹介する予定です。

特集記事では、最近注目を集めている紅藻ダルスについて紹介いたしました。これまでも新聞などで目にする機会はありましたが、今年4月にNHKの全国ニュースで取り上げられて以来、「ダルスって何?」という同窓生からの声を聞く機会が増えました。それらの声に答えるべく、ダルス研究に携わっておられる方々に最新の知見を紹介していただきましたので、ぜひご一読ください。

平成27年度第2号は通算306号目の親潮になります。原稿の締め切りは平成28年1月12日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(alumni@fish.hokudai.ac.jp)にて受付しております。支部報告や同期会報告、著書の紹介など、皆様ふるってご投稿ください。詳しくは上欄の親潮投稿規定を御覧ください。

(編集幹事 / 井上 晶 平5化)

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円~承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE(0138)40-6275・FAX40-3939
 釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE(0154)52-4101・FAX52-4103
 札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE(011)299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
 鮮魚部 TEL 017(738)1281
 冷凍部 TEL 017(738)8221
 塩干部 TEL 017(738)5511
 加工部 TEL 017(738)6581
 企画部 TEL 017(738)1281
 管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

人工魚礁を通じて
北海道の水産資源の保護・増殖に貢献します

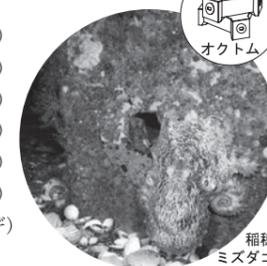


鬼脇 ホッケ

海洋土木株式会社

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-11
<http://www.kaiyodoboku.com>

代表取締役 木實谷浩史(54ゾ)
 取締役副社長 石井直志(49ゾ)
 取締役札幌支店長 佐々木洋(53ギ)
 青森営業所長 山口伸治(49化)
 北陸営業所長 魚住昭文(52ギ)
 札幌支店部長 村井和明(59ゾ)
 技術部部長代理 日和久典(平6ギ)



オクトム

稲穂
ミズダコ

玉館竹田

株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

食卓に函館の味を

本社工場 函館市浅野町3番10号
 TEL(0138)43-1110(代) FAX(0138)43-1113
 札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産冷蔵配送センター3F)
 TEL(011)623-0990 FAX(011)644-9910
 竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)
 TEL(03)6226-6820 FAX(03)3545-2135
 竹田食品販売(株) 仙台営業所 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)
 TEL(022)772-1970 FAX(022)722-1987
 竹田食品販売(株) 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)
 TEL(06)6307-5311 FAX(06)6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

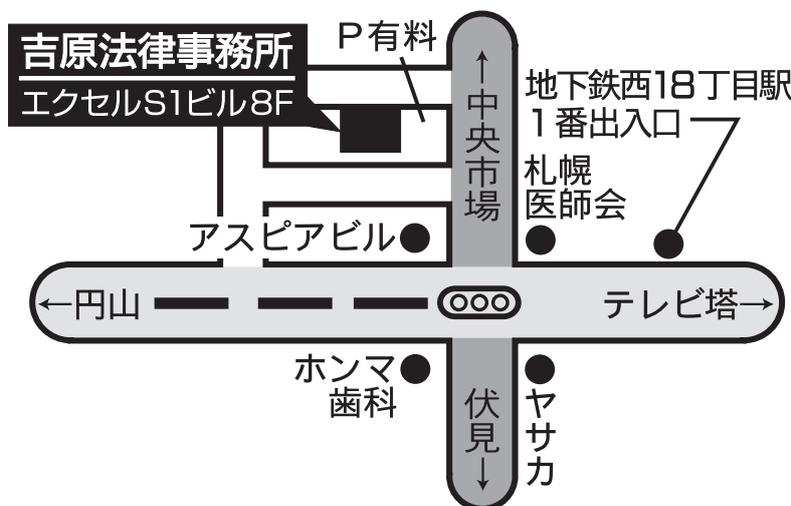
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。